

青森県埋蔵文化財調査報告書 第136集

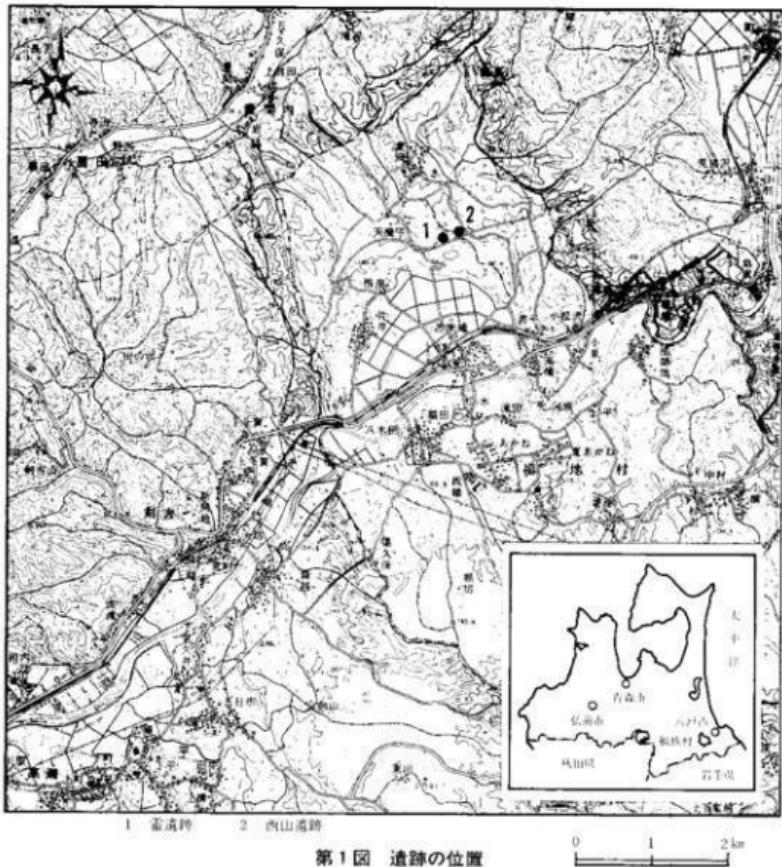
雷遺跡・西山遺跡

平成 2 年 度

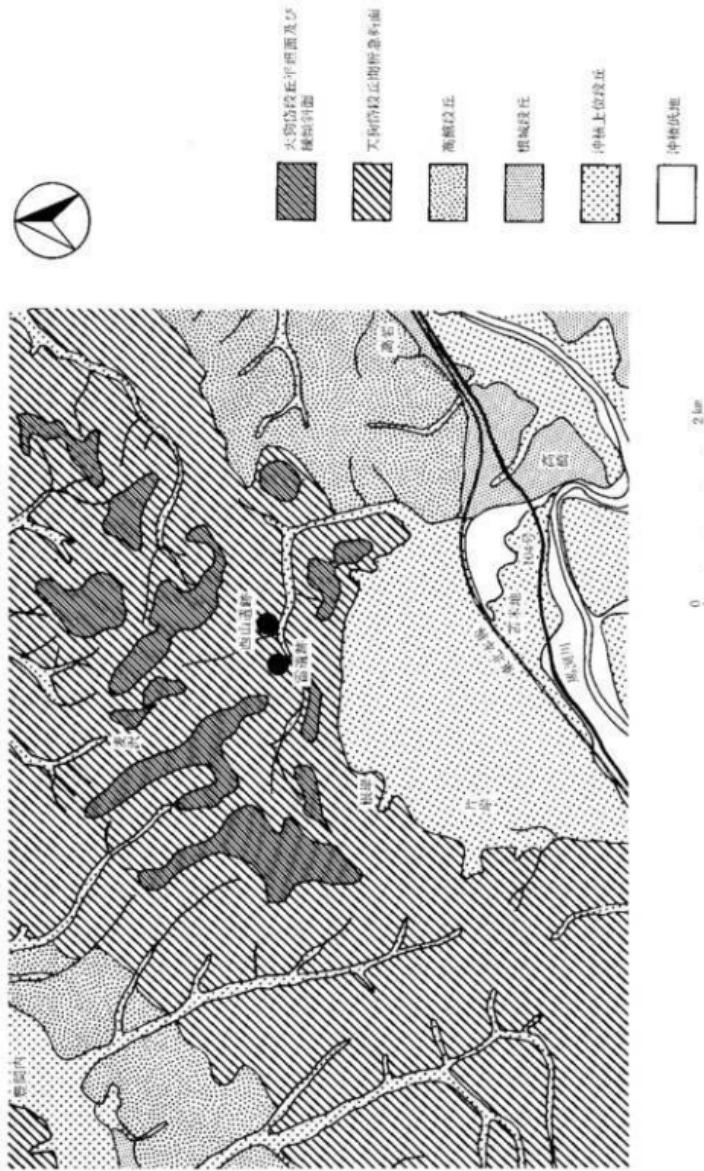
青森県教育委員会



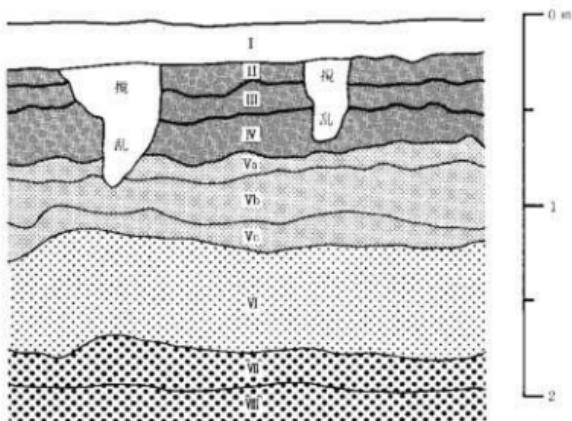
(「鹿」狩獵文土器部分)



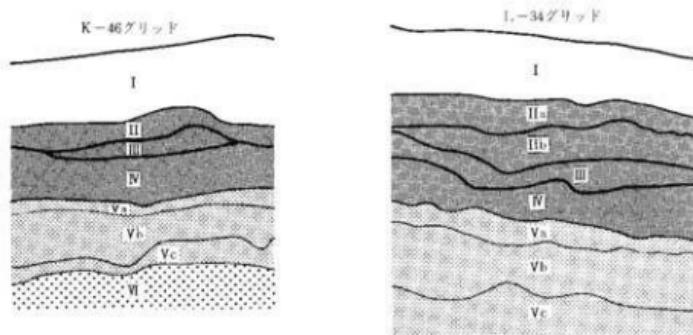
第2圖 遺跡周辺地質概要図



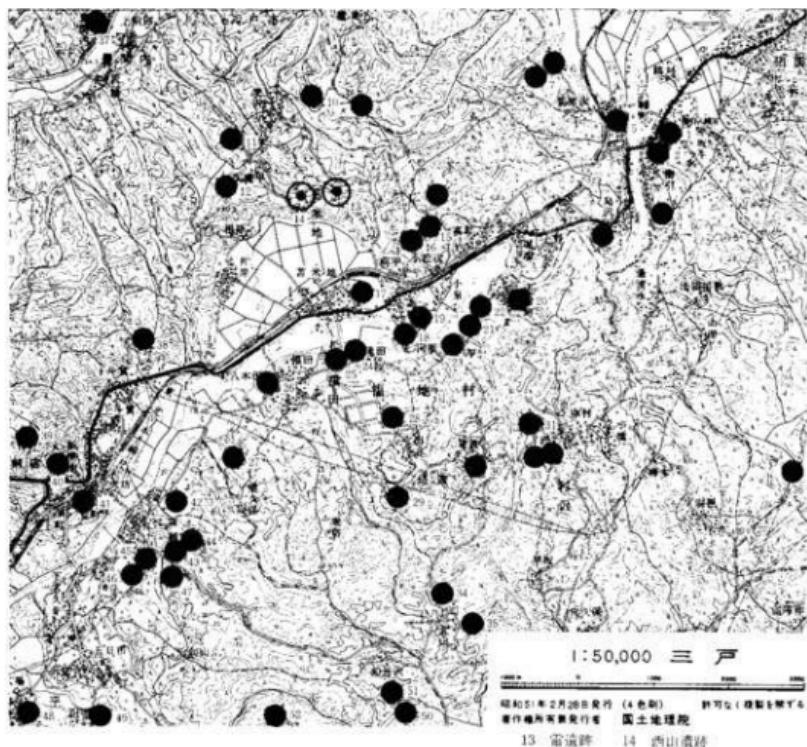
西山遺跡



雷遺跡 (縮尺図)



第3図 基本層序



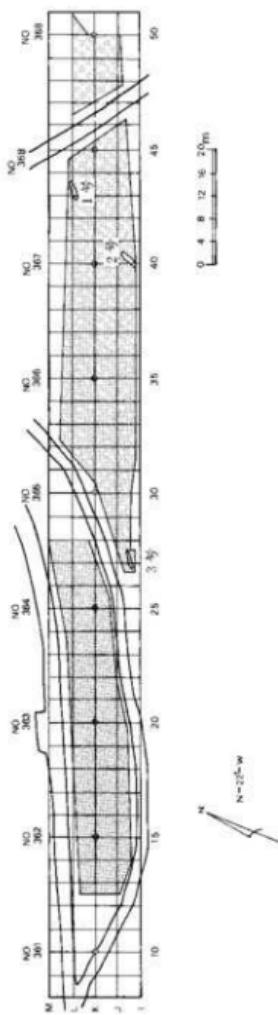
第4図 周辺の遺跡

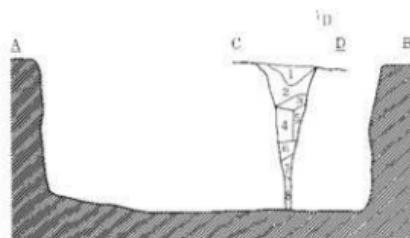
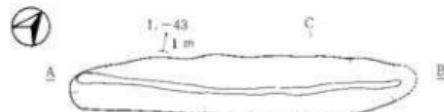
第1表 周辺の遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	備考
1	千石屋敷遺跡	八戸市八幡字千石屋敷	台地	包含地	縄文(晚期)	
2	八幡貝塚遺跡	八戸市八幡字館ノ下	古地	貝塚	縄文(晚期)	
3	橋引遺跡	八戸市橋引字南前船跡下入會		城跡		
4	駐場遺跡	八戸市上野字駐場	台地	包含地	縄文(前~晚期)	
5	一日市遺跡	八戸市橋引字一日市	古地	散布地	歴史(平安、中世)	
6	荒猪の沢遺跡	八戸市橋引字荒猪の沢	古地	散布地	歴史	
7	岩の武平遺跡	八戸市橋引字岩の武平19	古地	包含地	歴史	
8	直波遺跡	八戸市橋引字直波	台地	包含地	縄文(前、中期)	
9	白樺遺跡	八戸市橋引字白樺	丘陵	散布地	縄文(晚期)	

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	備考
10	下木戸塙遺跡	福地村東洞字下木戸塙9-93	台地	包含地	縄文(前期)	
11	北向遺跡	福地村委沢字北向4	台地	包含地	縄文(後期)	
12	館野遺跡	福地村若木地字館野	丘陵	包含地	縄文(後期)	青理文報第119集
13	西山遺跡	福地村苦木地字西山1-2	台地	包含地	縄文(後期)	
14	雷遺跡	福地村若木地字雷1	台地	包含地	縄文(後期)	
15	小松沢下平遺跡	福地村小泉字小松沢下平26	丘陵	散布地	縄文(晚期)	
16	中森遺跡	福地村小泉字中森1-4	丘陵	散布地	縄文(後、後期)歴史	
17	高橋宿遺跡	福地村高橋字横橋6	丘陵	館跡	中世~近世	
18	巣食平塙跡	福地村小泉字巣食平17	丘陵	散布地	縄文(後期)歴史	
19	細尻遺跡	福地村小泉字細尻30	丘陵	散布地	歴史	
20	法師御館遺跡	福地村法師御宇州向93	丘陵	館跡	中世~近世	
21	西張遺跡(1)	福地村法師御宇西張42-6	台地	包含地	縄文(後期)	
22	西張遺跡(2)	福地村法師御宇西張58	台地	散布地	縄文(後期)	
23	館遺跡	福地村坂瀬字館9	台地	包含地	縄文(後期)	
24	源次郎平塙跡(1)	福地村福田字源次郎平7	台地	包含地	縄文(後期)	
25	源次郎平塙跡(2)	福地村福田字源次郎平	台地	包含地	歴史	
26	西久根遺跡	福地村福田字西久根51	台地	包含地	縄文(前、中期)	福地村郷土誌
27	矢崎宿遺跡	福地村福田字矢崎8の1	台地	包含地	縄文(後期)歴史	
28	カッテウ遺跡	福地村坂瀬字カッテウ44-2	丘陵	散布地	縄文(後、後期)	
29	駄森遺跡	福地村坂瀬字駄森10-17-1	丘陵	散布地	縄文(後、後期)歴史	
30	坂瀬塙跡	福地村坂瀬字坂瀬24	台地	包含地	縄文(後、後期)	八戸周辺の遺跡地名表
31	天獅子遺跡	福地村坂瀬字天獅子16	丘陵	散布地	縄文(後期)歴史	八戸周辺の遺跡地名表
32	森山遺跡	福地村杉沢字森山7-1	丘陵	散布地	歴史	
33	牛島遺跡	福地村杉沢字牛島5	丘陵	散布地	縄文(後期)歴史	
34	佐佐窓遺跡	福地村坂瀬字佐佐窓2	台地	包含地	縄文(後期)	
35	長地窓遺跡	福地村坂瀬字長地窓24	丘陵	包含地	縄文(後期)	
36	糸巻沢遺跡	福地村桜木字糸巻沢30	丘陵	包含地	縄文(中、後期)	青理文報第83集
37	高寺遺跡	五戸町豊間内字高寺		包含地	縄文(後期)	
38	諸味坂遺跡	名川町牛貫字諸味坂	山地	包含地	縄文(後期)	
39	伊勢沢遺跡(1)	名川町劍吉字伊勢沢	丘陵	包含地	縄文	
40	伊勢沢遺跡(2)	名川町劍吉字伊勢沢	丘陵	包含地	縄文(後、後期)歴史	
41	劍吉荒廃遺跡	名川町劍吉字荒野60-70-1	台地	包含地	縄文(後期)	古風足利市丸町奥野在原町 kita, kōtō, miyakawa, okuno, nakanohara
42	大宮遺跡	名川町森越字大宮	台地	包含地	縄文(後期)歴史	
43	森越山遺跡(1)	名川町森越字家ノ上	丘陵	包含地	縄文(後期)	
44	森越山遺跡(2)	名川町森越字家ノ上	丘陵	包含地	縄文(後期)歴史	
45	森の越野月遺跡	名川町森越字野月森越月ノ塚原	台地	包含地	縄文(早、後、後期)歴史	
46	楓木遺跡	名川町森越字楓木		包含地	縄文(後、後期)歴史	
47	提ヶ沢遺跡	名川町森越字提ヶ沢	台地	包含地	縄文(早期)	
48	竹木田遺跡	名川町平字竹木田57	台地	散布地	縄文(後期)歴史	
49	虚空藏遺跡	名川町平字虚空藏10-1	丘陵	包含地	縄文(後、後期)	市空藏遺跡発掘調査報告書
50	下横沢遺跡(2)	名川町下名久井字下横沢42	台地	包含地	縄文(後、後期)歴史	
51	下横沢遺跡(3)	名川町下名久井字下横沢43	台地	包含地	縄文	
52	東山遺跡	名川町下名久井字東山43-2	台地	散布地	縄文(後期)	

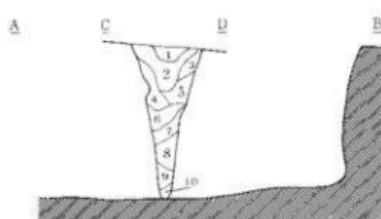
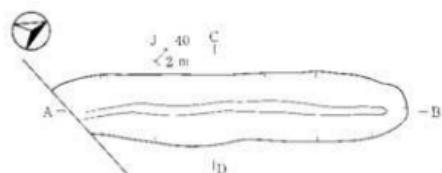
第5图 雷达站选址配置图





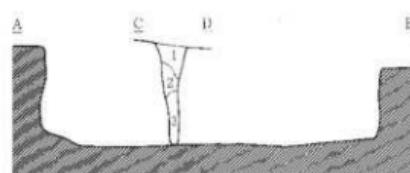
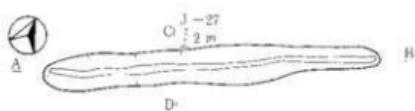
第1号溝状ピット

- 第1層 黒色土 10YR^{1/2} 水化物微量混入
 第2層 黒色土 10YR^{1/2} 水化物微量混入
 第3層 黒色土 10YR^{1/2}
 第4層 黒色土 10YR^{1/2}
 第5層 黒色土 10YR^{1/2}
 第6層 黑褐色土 10YR^{1/2}
 第7層 黒色土 10YR^{1/2}
 第8層 黒色土 10YR^{1/2} 水化物微量混入



第2号溝状ピット

- 第1層 黒色土 10YR^{1/2}
 第2層 黒色土 10YR^{1/2}
 第3層 黑褐色土 10YR^{1/2}
 第4層 黒色土 10YR^{1/2} 中微浮石との混合上
 第5層 黒色土 10YR^{1/2}
 第6層 黒色土 10YR^{1/2}
 第7層 黒色土 10YR^{1/2}
 第8層 黑褐色土 10YR^{1/2}
 第9層 黑褐色土 10YR^{1/2} 褐色土との混合上
 第10層 黑褐色土 10YR^{1/2}

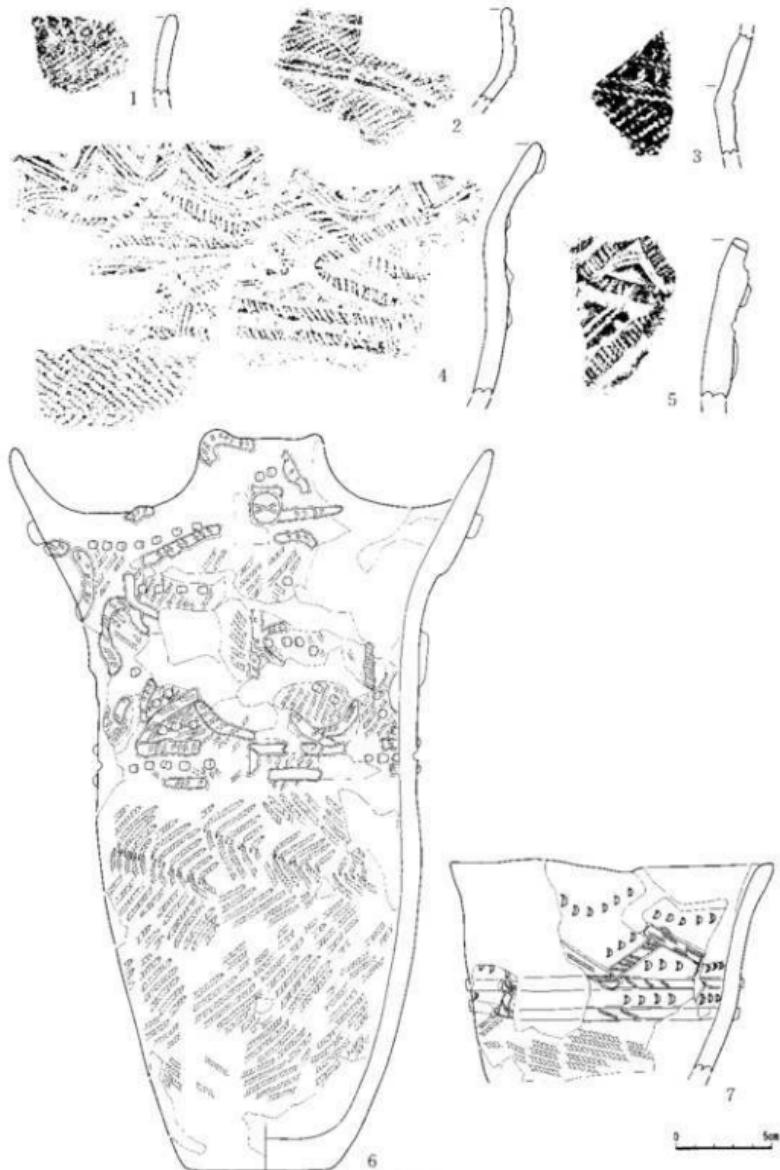


第3号溝状ピット

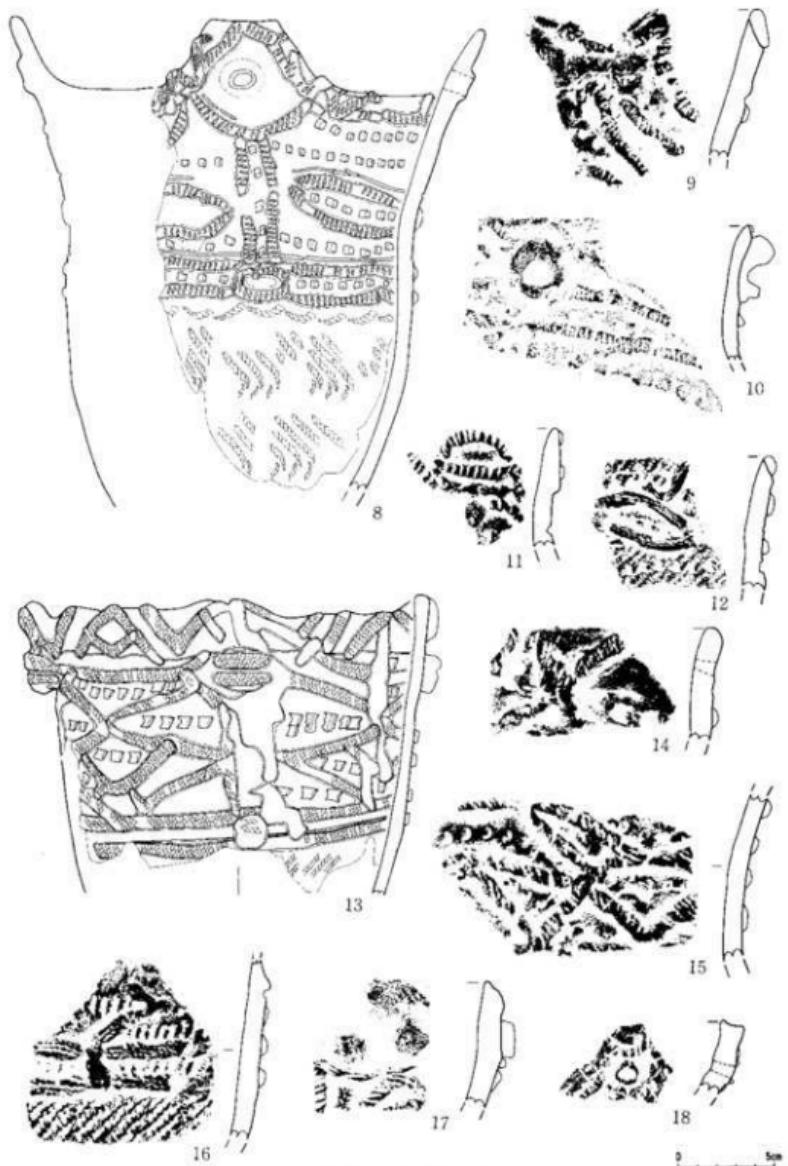
- 第1層 黒色土 10YR^{1/2} かたく、しまりあり
 第2層 黒色土 10YR^{1/2} かたく、しまりあり
 第3層 黒色土 10YR^{1/2} かたく、しまりあり

0 2m

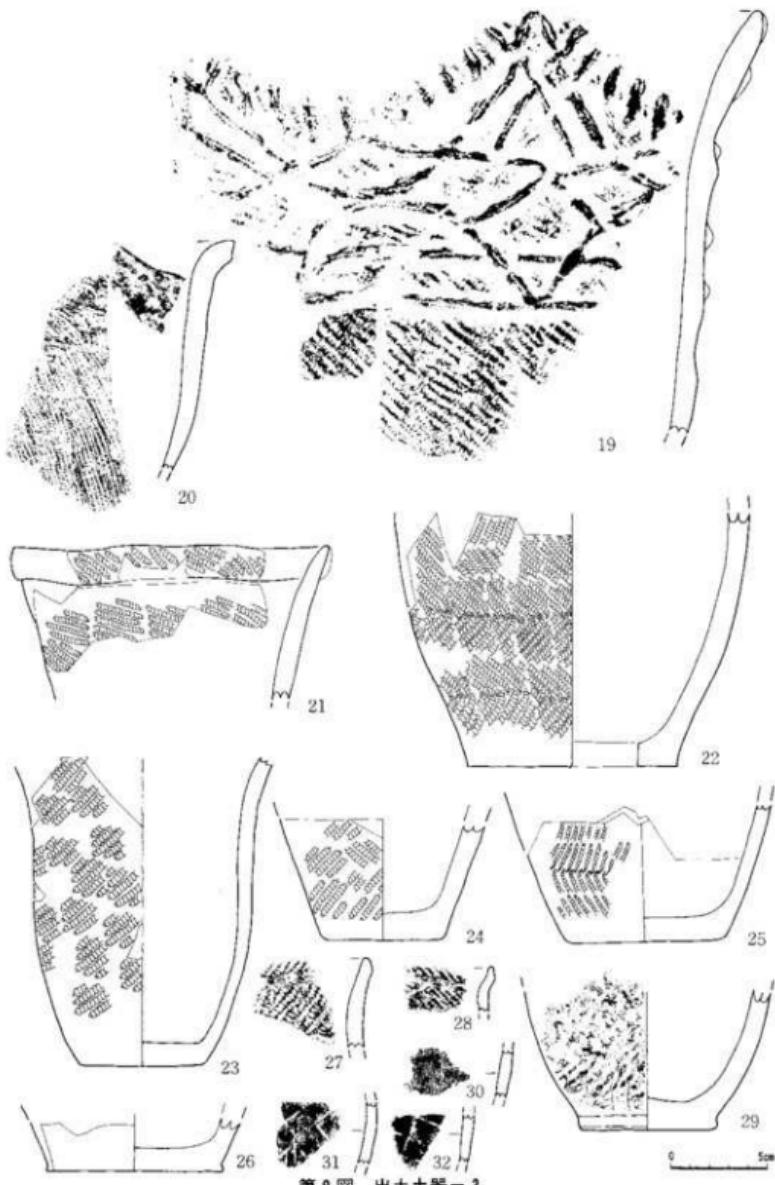
第6図 第1～3号溝状ピット



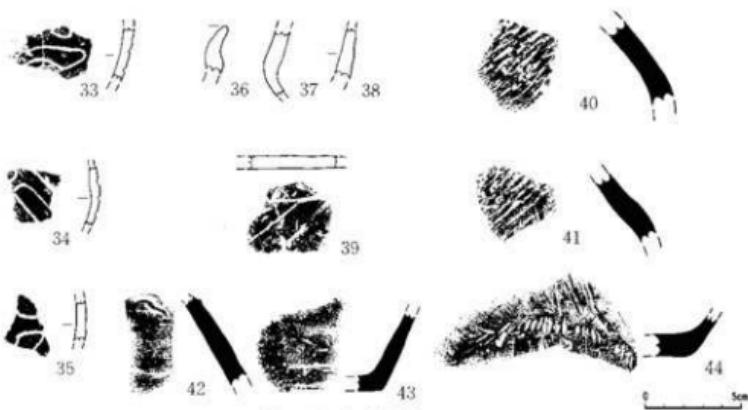
第7図 出土土器-1



第8図 出土土器-2



第9図 出土土器-3



第10図 出土土器-4

である。39は薄手で、内面は黒色処理されており、外面に木葉痕が認められる。甕の焼成は全体に非常に硬質であり、あかやき土器に近い。10世紀末から11世紀初頭と考えられる。

須恵器 (第10図-40~44)

大甕及び小型甕(壺?)の破片が出土している。44は底部破片で、立ち上がりの部分は籠ヶズリがなされており、外縁に叩き目が認められる。40・41は外面に叩き目が認められ、内面は範ナデが行われ、當て具痕は認められない。41は黒色の自然釉が付着している。小型甕または壺と考えられる破片は、内外面ともナデによって器面を整形している。

(白鳥 文雄)

2 石 器

剥片石器25点、礫石器9点の出土である。総点数が非常に少ないとから、各器種等での細分類は行わず、一般的な器種名によって分類した。また、すべて遺構外出土のものであることから、一括して記載する。

(1) 剥片石器

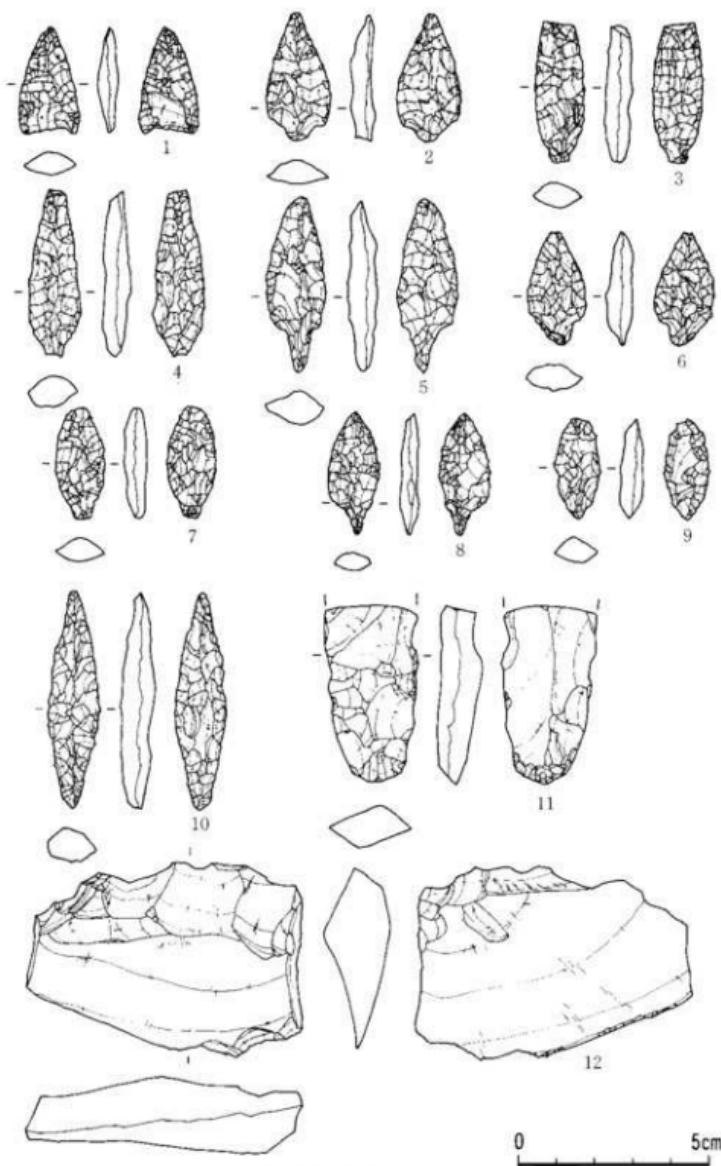
石鏃 (第11図-1~10)

10点出土した。無茎鏃1点、有茎鏃7点、尖基鏃2点で、完形品は4点である。

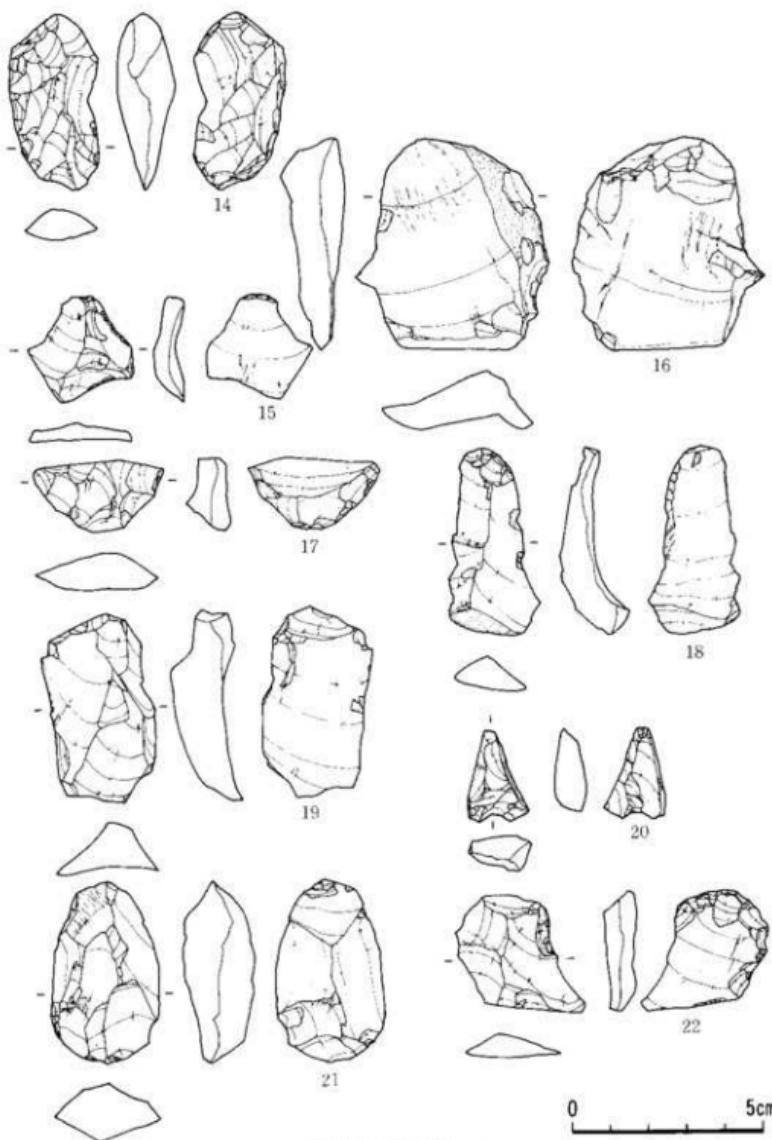
1は薄手の無茎凹基鏃で、完形品である。基部の一端が(釣針の)カエシ状に突出している。2は有茎平基鏃で、基部端を欠失している。器体中央部に最大厚を有する。3~8の6点は、有茎突基鏃である。3・4は欠損品であり、長さに比して幅が狭く、尖頭部が長く作出されて

第2表 出土土器觀察表

番号	出土地点	層	部 位	外 面 塗 文 文 標	内 面	分類
7回-1	K-37	V	口 緑 部	縦位圧痕+縞文(R.L.)		I群
7回-2	I-28	IV	口 橙 部	貼付隆帯+側面圧痕+縞文(L.R.)		II群
7回-3	K-34	III	口 黄 部	側面圧痕+縞文(L.R.)		II群
7回-4	L-34	III	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+側面圧痕+結束1種羽状縞文		III-1
7回-5	J-49	I	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+側面圧痕		III-1
7回-6	K-37	III	略 完 形	刺突+貼付隆帯+結束1種羽状縞文		III-1
7回-7	K-33	IV	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+縞文(H.L.)		III-1
8回-8	K-37	Va	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+結束1種羽状縞文+補修孔		III-1
8回-9	I-49	I	口 緑 部	刺突+貼付隆帯		III-1
8回-10	J-29	III	口 緑 部	刺突+貼付隆帯		III-1
8回-11	L-36	III	口 緑 部	刺突+貼付隆帯に刻目		III-1
8回-12	K-37	V	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+縞文(L.R.)		III-1
8回-13	K-37	V	上 半 部	刺突+貼付隆帯+縞文(L.R.)		III-1
8回-14	J-49	I	口 緑 部	刺突+貼付隆帯+補修孔		III-1
8回-15	K-37	V	口 緑 部	刺突+貼付隆帯		III-1
8回-16	L-36	II	腹 部	刺突+貼付隆帯		III-1
8回-17	K-33	III	口 緑 部	貼付隆帯+ボタン状貼付		III-2
8回-18	J-40	III	口 緑 部	貼付隆帯+口唇部圧痕+補修孔		III-2
9回-19	J-38	IV	口 緑 部	貼付隆帯+縞文(R.L.)		III-2
9回-20	I-37	Va	口 緑 部	はけ目状の調整痕		III-3
9回-21	J-40	III	口 緑 部	縞文(R.L.)		III
9回-22	L-34	III	底 部	結束1種羽状縞文		III
9回-23	K-37	Va	下 半 部	縞文(L.R.)		III
9回-24	K-37	V	底 部	縞文(L.R.)		III
9回-25	I-37	Va	底 部	結束1種羽状縞文		III
9回-26	J-31	IV	底 部	無 文		III
9回-27	K-37	V	口 緑 部	縞文(L.R.)		III-3
9回-28	K-37	IV	口 緑 部	縞文(R.L.)		III-3
9回-29	I-36	III	底 部	結束1種羽状縞文		III
9回-30	IV	胴 部	R中路1型回転文		V	
9回-31	K-39	Va	胴 部	撲糸压痕(R.)		V
9回-32	L-38	II	胴 部	撲糸压痕(R.)		V
10回-33	I-40	胴 部	曲線沈線		IV	
10回-34	I-40	胴 部	工字文		IV	
10回-35	I-40	胴 部	曲線沈線		IV	
10回-36	I-43	III	口 緑 部	ナデ(摺位)上師器裏	ナ デ	VI
10回-37	K-46	I	底 部	ヘラナデ 土師器裏	ヘラナデ	VI
10回-38	K-41	I・II	胴 部	ロクロ使用 土師器裏	ヘラナデ	VI
10回-39	表 採	底 部	木葉痕 土師器裏	ヘラケズリ	VI	
10回-40	I-41	胴 部	格子様叩き目 須恵器	ヘラナデ	VI	
10回-41	K-41	III	底 部	格子様叩き目 須恵器	ヘラナデ	VI
10回-42	L-47	胴 部	ヘラナデ 須恵器	ヘラナデ	VI	
10回-43	表 採	底 部	ヘラナデ 須恵器	ヘラナデ	VI	
10回-44	表 採	底 部	ヘラケズリ 須恵器	ヘラナデ	VI	



第11図 出土石器-1



第12図 出土石器-2

おり、一端のほぼ頂部にまで達している。また、この端部寄りに、より強い敲打が成され、凹みが形成されているが、この痕跡は把握を容易にするための意図的なものか、また敲打具として併用した結果であるかは不明である。一側縁を機能面としており、敲打が成されている側のスリ面の縁には、連続した剥離が行われている。他方の縁には、使用時によるものと思われる小剥離が認められる。また、機能面中の縁寄りにも磨消されきっていない小剥離痕が認められる。スリ面は、2~3.5cmと幅広であり、片減りが顕著である。他の面及び側縁には、整形及び使用痕は、全く認められない。

7は、欠損品で、分厚い楕円縫を素材としており、側縁の一部に敲打と併行したスリの痕跡が認められる。また、器表面に加熱によるものと考えられる荒れがみられる。

8は、断面形が三角の、長楕円縫を素材としており、一端部を機能面としている。機能面は素材の形状を、そのまま利用しており、使用頻度も非常に少ない。他には整形・使用等による痕跡は全く認められない。

凹石（第13図9）

9は、三角形の、やや扁平な縫を素材としており、両面に敲打による凹みが認められる。また、一辺の一部にも敲打による潰れが認められる。全体に火熱を受けており、部分的に火熱によるものと考えられる小剥離と荒れが認められる。

3 その他の遺物

古銭

3枚出土した。寛永通宝と判読できるものが2枚で、1枚は銭名は不明である。また、5~6枚の古銭が半溶融状態で結合したものが出土した。これは、古銭を原材として鉄掛けのことを行った時の残滓の可能性がある。寛永通宝と判読できるものが1枚混じっている。

これら出土した古銭は、すべて銅銭である。出土層位は、すべて第1層（表土）である。保存状態が悪いために、拓本等の実測はできなかった。出土した旨の記載のみに留める。

（白鳥 文雄）

	玉 髓	玉質母貝	珪質貝岩	閃 綠 岩	安 山 岩	輝 綠 岩	砂 岩	計
石 鐵	2	1	7					10
石 楋			1					1
不定形（含じ…フレーク）			14(6)					14
石 斧				3				3
北海道式石冠						1	1	2
ス リ 石					1		2	3
凹 み 石					1			1
計	2	1	22	3	2	1	3	34

第3表 石器組成表

(玉質母貝→玉質貝岩→砂岩)



第13図 出土石器-3

第4表 石器觀察表

網片石器

圖版	出 地	土 点	層	器 樣	最 大 計 測 值				石 質	整理 番号	備 考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)			
11回-1	I	-41	III	石 鏽	28	16	5	1.6	玉 鏽	1	無基凹基 完形品
11回-2	J	-28	IV	石 鏽 (34)	17	6	(2.7)	珠 真	2	有基平基 基部欠損	
11回-3	K	-34	II	石 鏽 (37)	14	6	(3.4)	珪 真	3	有基凸基 先端・基部欠損	
11回-4	J	-44	-	石 鏽 (44)	13	7	(3.6)	珪 真	4	有基凸基 先端・基部欠損	
11回-5	K	-37	V	石 鏽	46	15	9	4.1	珠 真	5	有基凸基 完形品
11回-6	K	-40	III	石 鏽 (30)	15	7	(2.5)	玉 珠	6	有基凸基 先端・基部欠損	
11回-7	K	-37	V	石 鏽 (30)	12	7	(2.2)	珪 真	7	有基凸基 先端・基部欠損	
11回-8	K	-37	V	石 鏽	32	13	5	1.8	玉 鏽	8	有基凸基 完形品
11回-9	K	-37	V	石 鏽 (27)	12	7	(1.9)	珪 真	9	尖基 基部欠損	
11回-10	K	-37	V	石 鏽	58	14	9	4.1	珪 真	10	尖基 完形品
11回-11	J	-43	III	石 櫛	(43)	23	11	(12.6)	珪 真	11	
11回-12	I	-37	III	不 定 形	45	72	19	52.7	珪 真	12	
12回-14	J	-34	IV	不 定 形	46	23	15	15.2	珪 真	14	
12回-15	J	-43	III	不 定 形	28	27	7	3.9	珪 真	15	
12回-16	I	-37	III	不 定 形	55	49	12	29.0	珠 真	16	
12回-18	J	-37	III	不 定 形	49	23	14	8.4	珪 真	18	
12回-20	J	-42	III	不 定 形 (24)	16	9	(2.7)	珪 真	20		
12回-21	J	-40	I	不 定 形	48	28	19	22.4	珪 真	21	
12回-22	K	-42	III	不 定 形	31	34	9	6.1	珪 真	22	
12回-13	K	-37	V	U-フレーク	24	29	8	5.5	珪 真	13	
12回-17	K	-37	-	U-フレーク (18)	35	11	(5.7)	珪 真	17		
12回-19	I	-43	III	U-フレーク	50	27	15	18.7	珪 真	19	
	J	-49	I	U-フレーク	30	20	7	4.0	珪 真	23	
	J	-49	I	U-フレーク	23	12	8	1.5	珪 真	24	
	K	-35	II	U-フレーク	25	14	5	0.6	珪 真	25	

礫 石 器

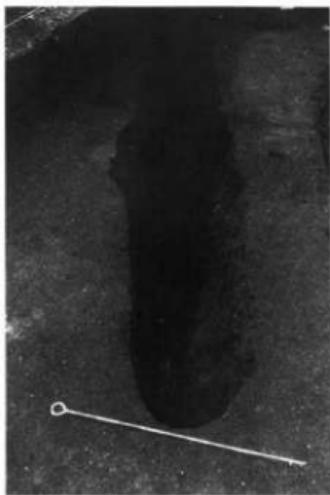
圖版	出 地	土 点	層	器 樣	最 大 計 測 值				石 質	整理 番号	備 考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)			
13回-1	L	-34	IV	石 斧 (86)	(52)	(36)	(255)	閃綠岩	4	磨製・欠損品、敲磨器軸用	
13回-2	J	-29	III	石 斧 (65)	(46)	(28)	(118)	閃綠岩	5	磨製・欠損品、敲磨器軸用?	
13回-3	表 採	-	石 斧 (82)	(49)	(41)	(220)	閃綠岩	6	磨製・欠損品、敲磨器軸用		
13回-4	J	-46	IV	北海道式石冠	120	71	49	653	砂 岩	2	完形品
13回-5	K	-32・33	III	北海道式石冠 (83)	(77)	(54)	(540)	閃綠岩	7	欠損品	
13回-6	K	-37	V	スリ石	111	76	50	634	砂 岩	3	完形品
13回-7	K-35・L-34	III	スリ石 (100)	(86)	(60)	(473)	安山岩	8	欠損品		
13回-8	I	-40	IV	スリ石	142	60	38	397	砂 岩	9	完形品・端部使用
13回-9	L	-42	III	凹 石	122	97	36	382	安山岩	1	完形品・2面使用



遺跡全 景

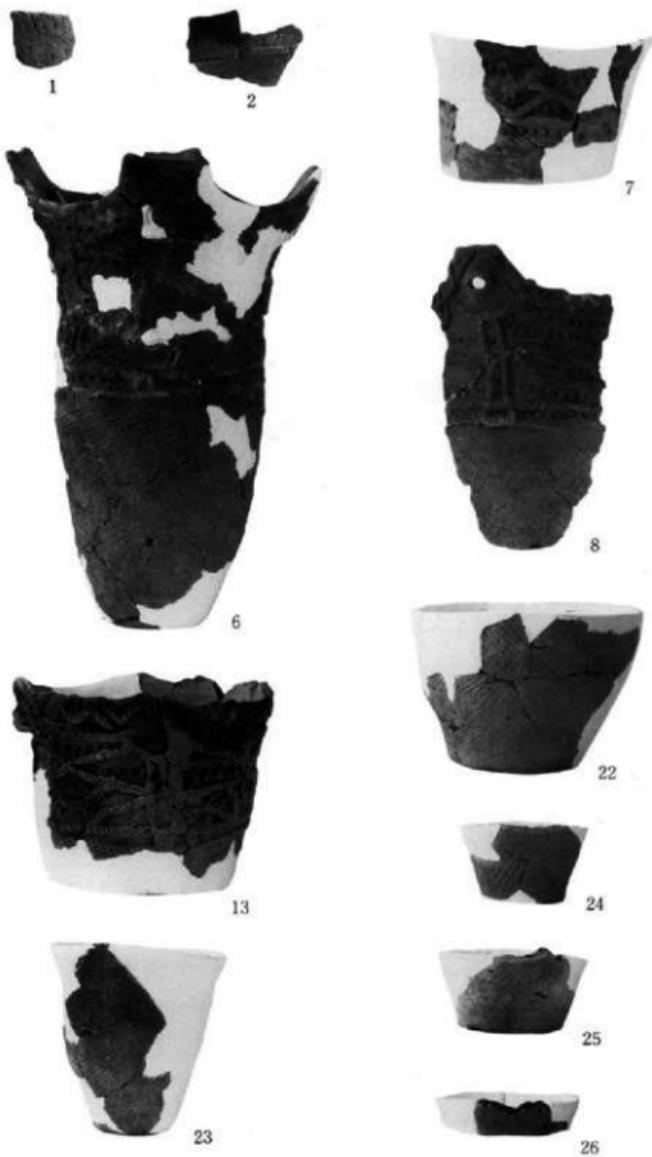


第 1 号溝状ビット



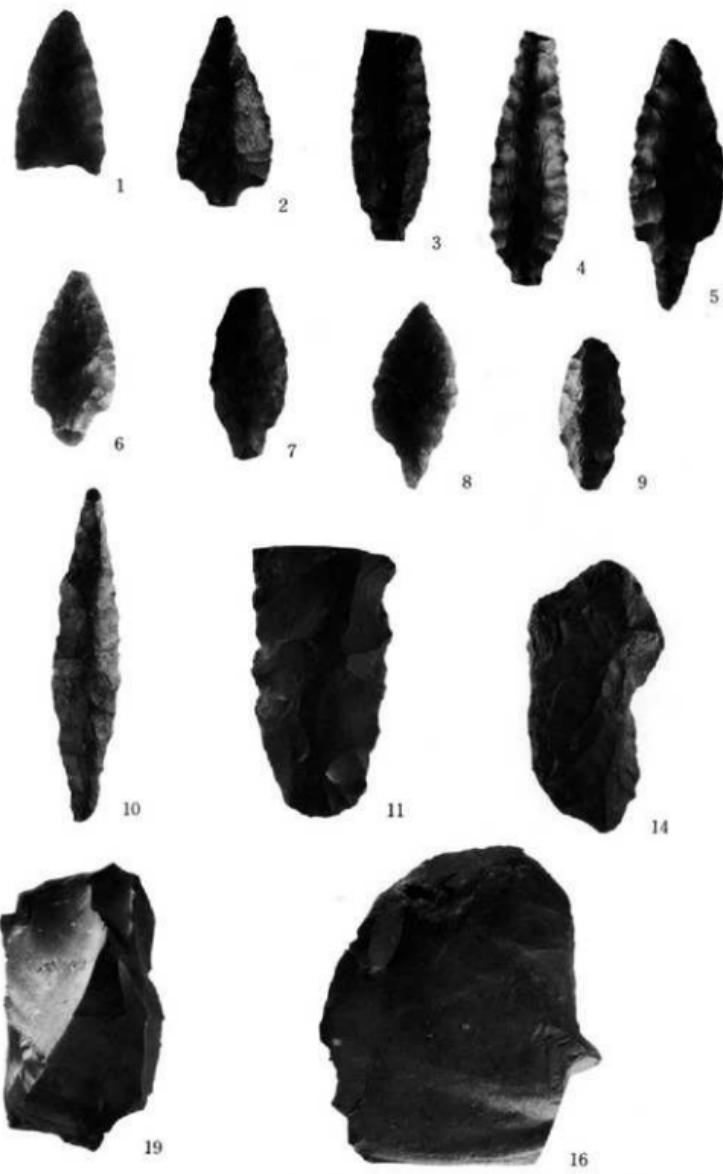
第 2 号溝状ビット

P L - 1 検出遺構



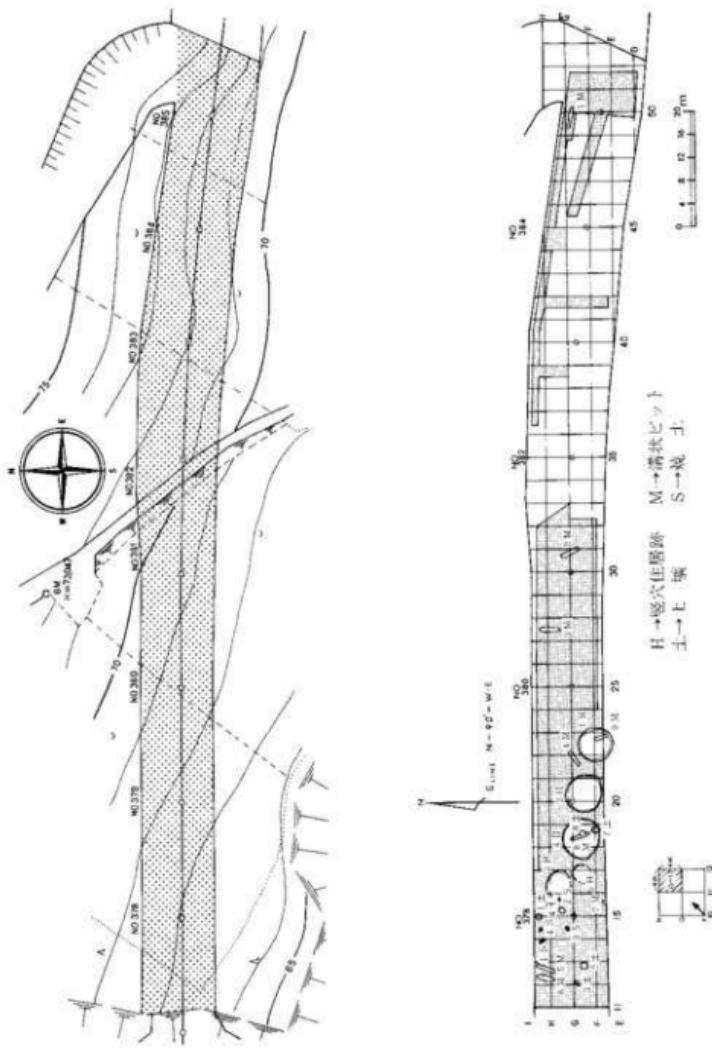
PL-2 出土土器

S = 1 : 45



PL-3 出土石器

S = 1 : 1



第14图 西山隧道施工部署图

第IV章 西山遺跡

今回の調査では、竪穴住居跡5軒、土壙6基、溝状ピット9基、焼土4基を検出した。

調査は、道路幅部分に限定されているため、これらの遺構の広がり及び集落の範囲については不明である。遺構は、台地下面の30ライン以西に集中している。

遺物では、縄文時代の土器片・弥生時代の土器片・石器等がダンボール箱で約20箱分出土している。

第1節 検出遺構

1 竪穴住居跡

5軒検出した。住居跡自体の重複は認められないが、非常に近接した位置関係での検出である。また、規模的には大型のものが多い。

遺構内の出土遺物は、住居跡出土の土器の実測・拓影図は、各住居跡の事実記載の後に掲載したが、石器は、第5号住居跡の後に一括して記載した。土壙・焼土遺構の遺物も一括して記載した。土器の観察表は、遺構内出土と遺構外出土のものに分けて記載した。石器の計測表は第2節の末尾に一括した。

第1号竪穴住居跡 (第15~17・30・32図)

(位置と確認) E・F-21~23グリッドに位置する。第II層下部において、遺物の密集部及び環状に広がる浮石の範囲として確認した。

(重複) 第9号溝状ピットと重複し本住居跡が新しい。

(規模と形状) 長径610cm、短径580cmであり、深さは45cm~60cmである。東西にやや長い円形を呈する。面積は、壁直下の範囲で24.7m²であり、疊約15丁分の広さである。

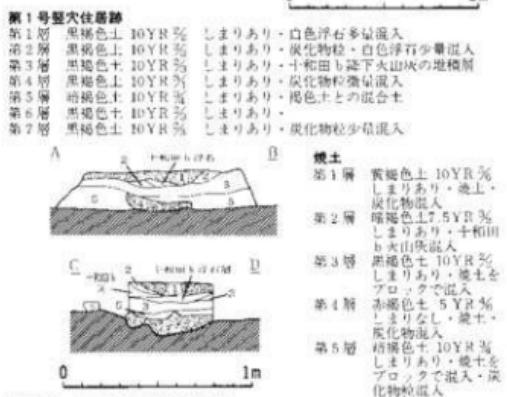
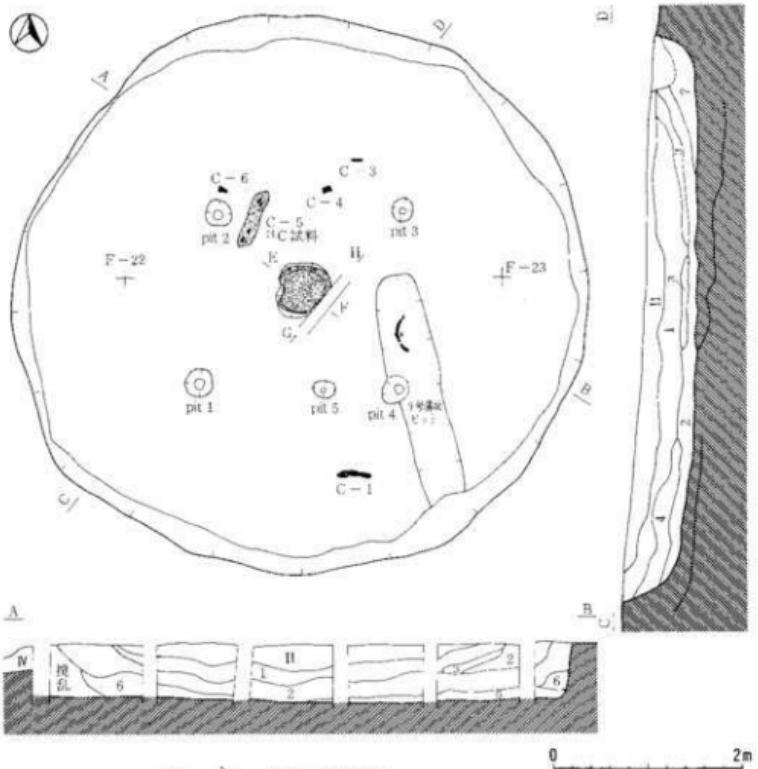
(壁) 第III~V層を壁としており、上部は若干しまりに欠ける。立ち上がりは、床面近くは緩やかである。

(床面) 第V層を床面としており、若干の起伏は認められるが、概ね堅緻である。全体にローム及び粘土の混合土を用いた貼り床面である。

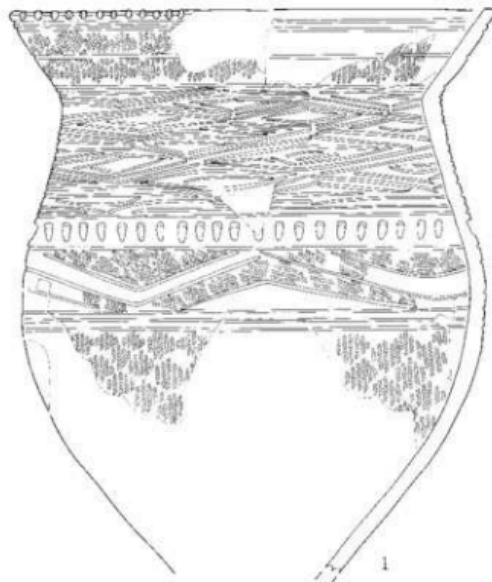
(柱穴) 床面上で5個のピットを確認した。炉を中心に、主柱穴と推定される4個が配置

第5表 ピット計測表

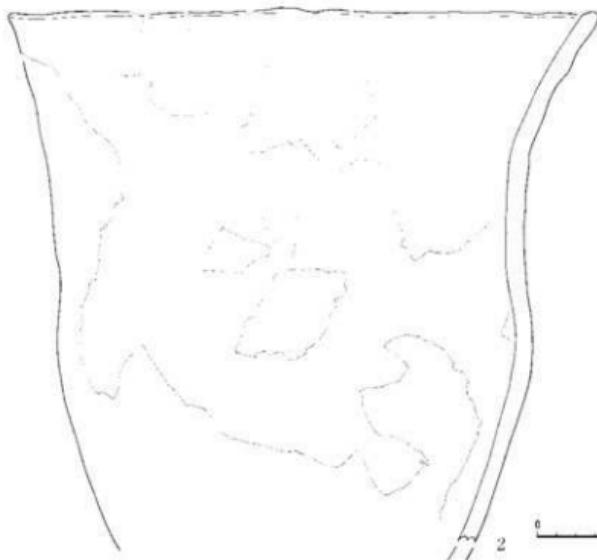
No.	口 径(cm)	底 径(cm)	深さ(cm)	Xo.	口 径(cm)	底 径(cm)	深さ(cm)
1	30 × 30	12 × 10	45	4	(30) × 26	11 × 9	55
2	28 × 27	10 × 10	50	5	25 × 18	7 × 6	18
3	25 × 23	8 × 7	43				



第15図 第1号竪穴住居跡

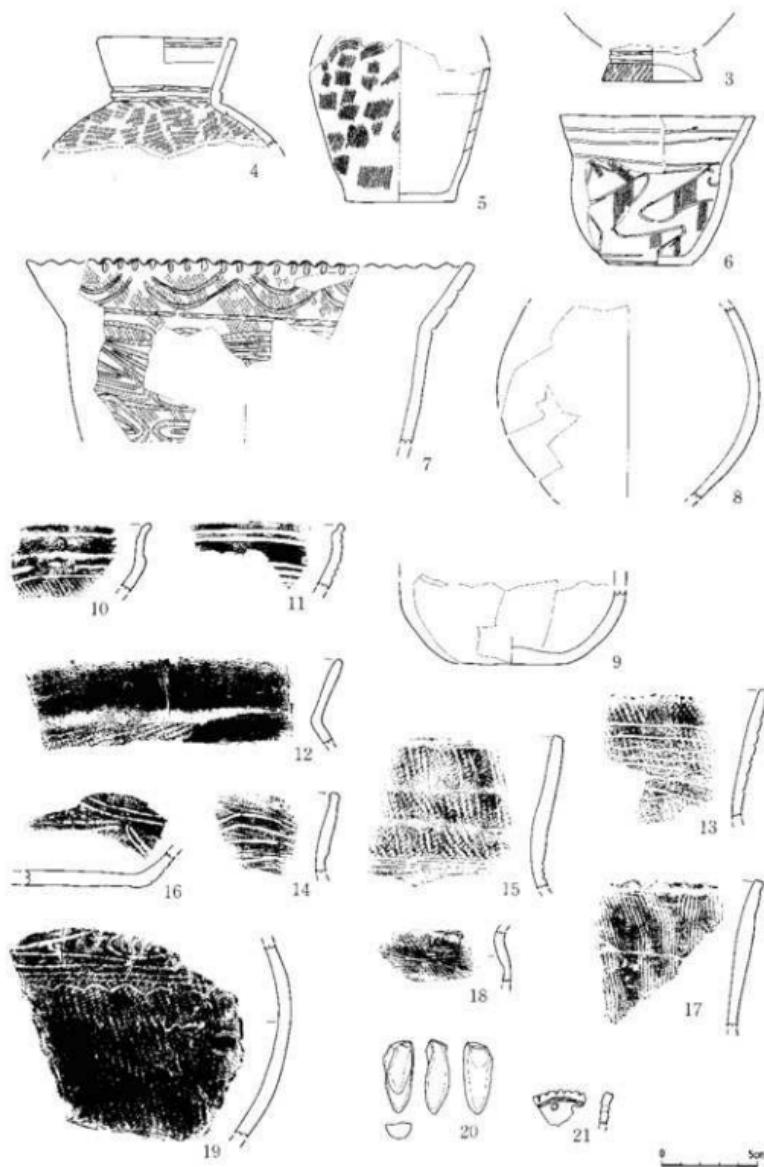


1



2

第16図 第1号竪穴住居跡出土土器－1



第17図 第1号竪穴住居跡出土土器-2

直に近い。

〔床面〕 第V層を床面としており、若干の起伏は認められるが、概ね堅緻である。全体にローム及び粘土の混合土を用いた粘り床面である。南西側に傾斜している。

〔柱穴・ビット〕 床面上で12個のビットを確認した。北東壁直下に4個の小ビットと住居中央部に7個のビットが掘り込まれている。また、東壁寄りに径75cm程で、深さ50cmの付属施設と考えられるPit 12が検出された。このビットを除いた他の11個が柱穴と考えられる。主柱穴は住居跡中央の7個が可能性が高い。ただ、基本的には4本柱と考えられること、また、住居跡の規模等から、建替えのあった可能性も考えられる。

〔炉〕 住居跡の中央からやや北寄りに位置する。地山を掘り込んで構築しており、炉を中心とした部分は、やや低く掘り下げられている。焼土は全体にややかたくしまりがある。炭化物粒を若干混入している。

〔堆積土〕 4層に分層される。上部は暗褐色土で、下部は黒褐色土である。第1層は第II～第IV層の混合土的様相を呈している。第3・4層は第IV層などの再堆積と考えれるものでしりが弱い。第1・2層は、十和田b降下火山灰の浮石、中摺浮石及び南部浮石を混入しており、人為的堆積の可能性が強い。

〔出土遺物〕 確認面から床面まで、多くの遺物が出土した。

土器の多くは弥生時代の土器であるが、覆土中からは縄文時代後期の土器も伴出している。床面からは2・5・7・11が出土しており、また、第1・2層が人為的に埋め戻された可能性があることから、弥生時代の土器は本住居跡で使用されていた可能性が高い。

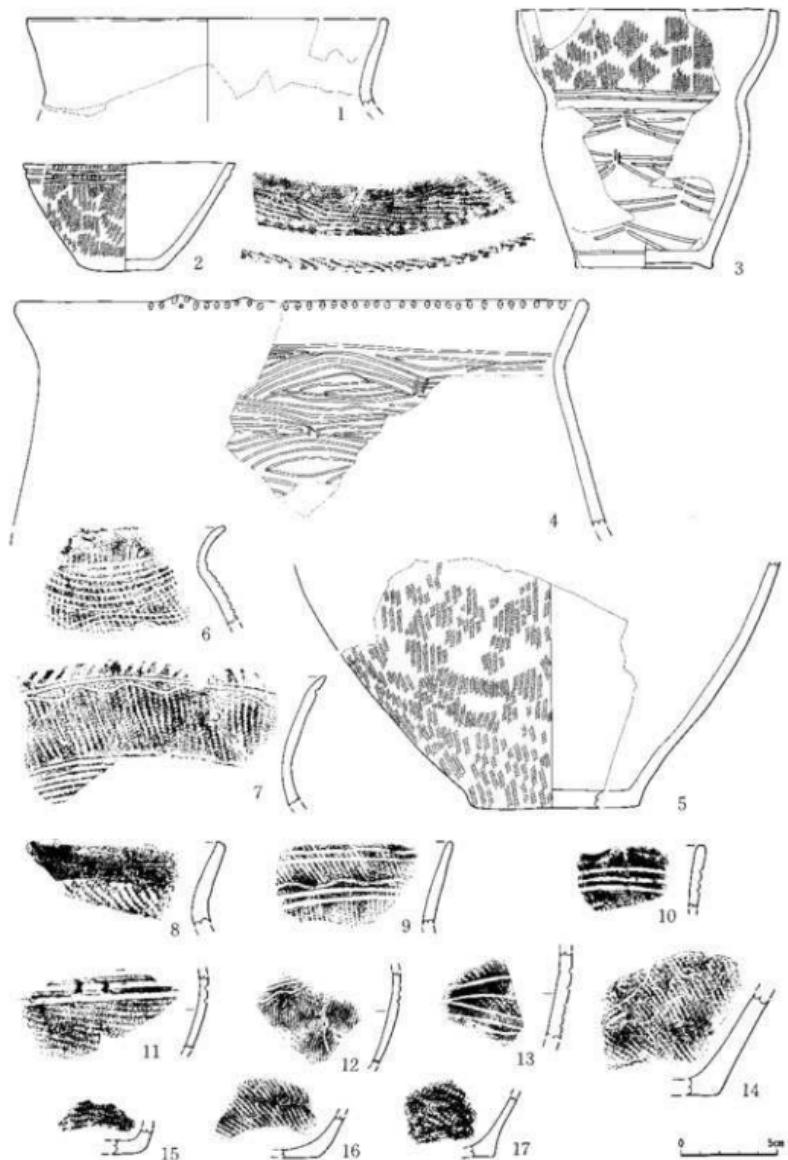
石器及び剥片・礫は、土器の出土量に比して、非常に少量の出土であり、石器は有茎凸基の石鏃が1点出土したにすぎない。

〔遺構の時期〕 出土土器から、縄文時代晩期末葉と推定される。

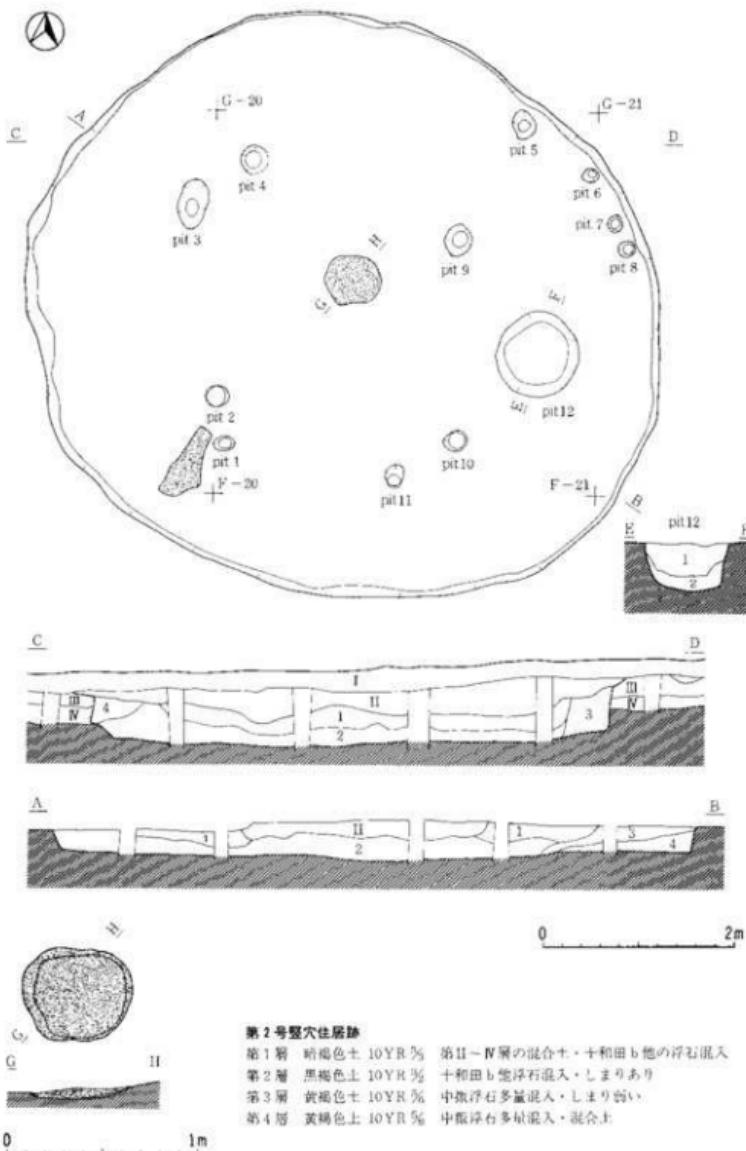
(白鳥 文雄)

第6表 ビット計測表

No.	口 径(cm)	底 径(cm)	深さ(cm)	No.	口 径(cm)	底 径(cm)	深さ(cm)
1	24 × 16	14 × 11	53	7	19 × 16	12 × 11	32
2	24 × 21	23 × 20	45	8	18 × 17	12 × 11	52
3	52 × 30	18 × 14	64	9	35 × 30	17 × 16	69
4	30 × —	18 × —	45	10	26 × 22	18 × 16	51
5	31 × 22	14 × 13	46	11	24 × 20	16 × 13	62
6	18 × 14	10 × 8	38	12	90 × 85	65 × 62	56



第19图 第2号竖穴住居跡出土土器



第18図 第2号竪穴住居跡

第3号竪穴住居跡 (第20・21図)

〔位置と確認〕 G・H-16グリッドに位置する。第II層下部において、遺物の密集部及び黒褐色土の範囲として確認した。耕作による削平のため西側部分は確認できなかった。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 確認部分での最大長は、480cmである。深さは10cm～20cmである。北西から南東に長い橢円形を呈するものと推察される。

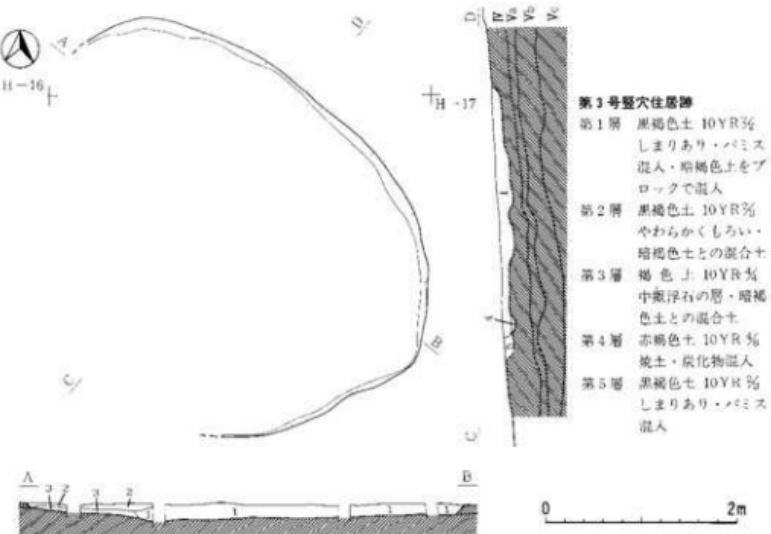
〔壁〕 第IV層を壁としており、しまりに欠ける。立ち上がりは、概ね垂直に近い。

〔床面〕 第IV層を床面としており、起伏が認められる。しまりに欠けており、貼り床の痕跡もほとんど検出できなかった。床面としては、他の第IV層よりもしまりが強い部分である。

〔柱穴・ピット〕 確認できなかった。

〔炉〕 確認できなかった。ただ、南東端に径20cm程で厚さ5cm程のしまりのある焼土が確認された。位置から、炉とは断定できない。

〔堆積土〕 5層に分層される。黒褐色土を基調とし、暗褐色土をブロック状に含む。中振浮石及び白色の浮石を混入する。全体にしまりが認められる。人為的堆積の可能性も考えられるが、精査面積が少ないため、推察の域を出ない。



第20図 第3号竪穴住居跡

〔出土遺物〕 確認面から床面まで遺物が出土している。壁高が10~20cmであることから、出土した遺物はほぼ床面直上のものと考えられるが、耕作による削平も著しいため、攪乱した可能性も多い。また、住居跡として確認できる前段階においては、本住居跡の範囲内外の土層中から、縄文時代後期初頭の狩猟文土器が出土している。

土器は、弥生時代及び縄文時代の後期の土器が出土している。片断及び小礫は少量出土したが、石器は1点も出土しなかった。

〔遺構の時期〕 出土土器から、縄文時代後期以降と推定される。 (白鳥 文雄)



第21図 第3号竪穴住居跡出土土器

第4号竪穴住居跡 (第22・23・25~28・30・31図)

〔位置と確認〕 E~G-17~19グリッドに位置する。第II層下部において、遺物の密集部及び暗褐色土の範囲として確認した。また、第1号竪穴住居跡と同様に降下火山灰の浮石及び灰が、平面上で円形に確認できた。

〔重複〕 第7号土壙及び第8号土壙と重複し、本住居跡が新しい。また、第8号溝状ピットとも重複しており、本住居跡が新しい。

〔規模と形状〕 長径734cm、短径654cmであり、深さは30cm~50cmである。東西に長い楕円形を呈する。面積は、壁直下の範囲で34.8m²であり、畠約21丁分の広さである。

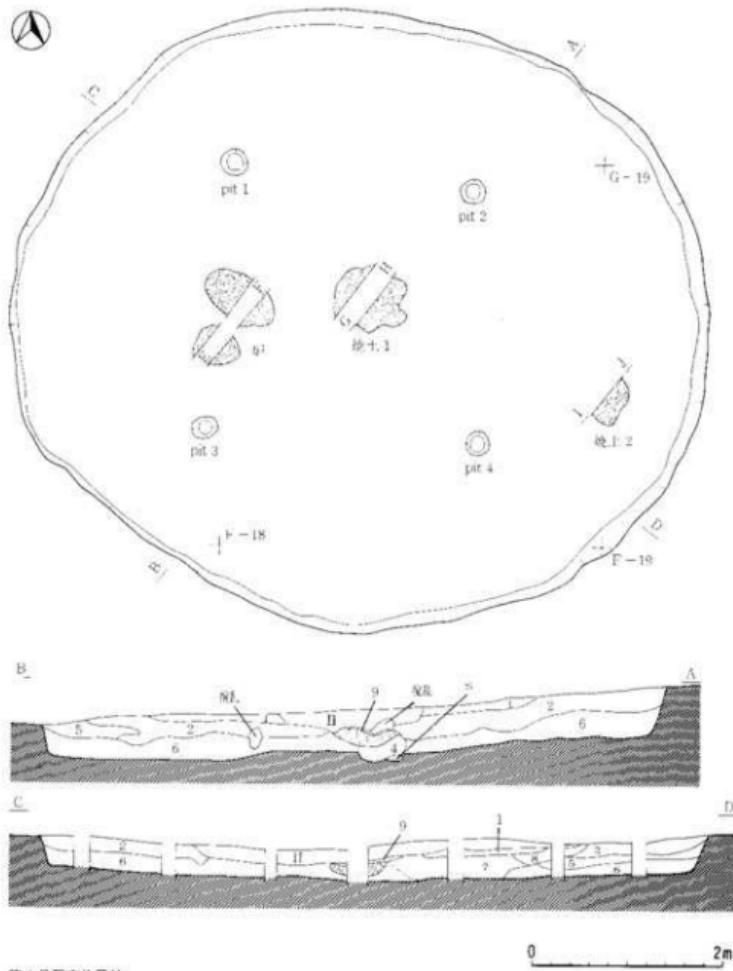
〔壁〕 第III~V層を壁としており、上部は若干しまりに欠ける。立ち上がりは、概ね垂直である。

〔床面〕 第V層を床面としており、緩やかな起伏が認められるが、概ね堅緻である。全体にローム及び粘土の混合土を用いた粘り床面である。全体に南西側に傾斜している。

〔柱穴・ピット〕 床面上で4個のピットを確認した。住居跡中央寄りにほぼ方形に配置されている。各柱穴は、東西間では、Pit 1と2で250cm、3と4で290cmであり、第1号住居跡と同様に南側が若干広い。南北間では、1と4で280cmで、2と4で270cmとほぼ等間隔である。

第7表 ピット計測表

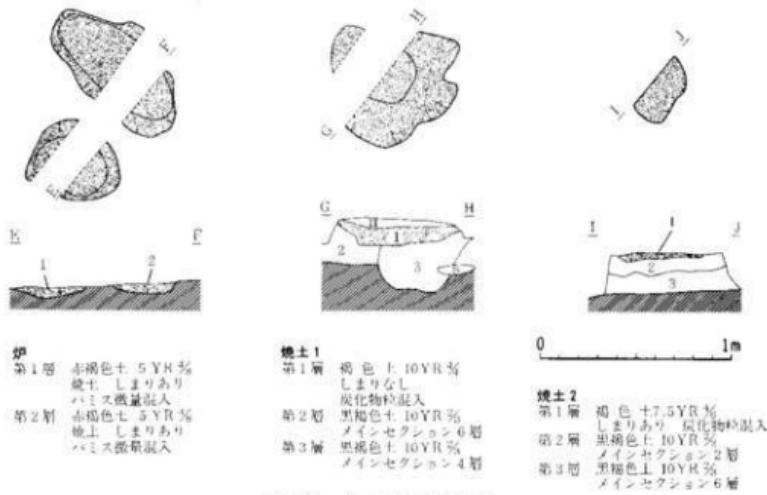
No	口 深(cm)	底 深(cm)	深さ(cm)	No	口 深(cm)	底 深(cm)	深さ(cm)
1	29 × 28	17 × 16	44	3	27 × 23	15 × 14	45
2	25 × 26	15 × 15	41	4	26 × 24	16 × 14	45



第4号竪穴住居跡

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------|
| 第1層 | 赤褐色土 10 YR 5/4 | やわらかい、炭化物粒混入 |
| 第2層 | 黒褐色土 10 YR 3/2 | しまりあり、土和田土、炭化物混入 |
| 第3層 | 赤褐色土 7.5 YR 5/6 | しまりあり、ハミス混入、燒土 |
| 第4層 | 黒褐色土 10 YR 3/2 | ハミス混入、燒土混入 |
| 第5層 | 粘褐色土 10 YR 3/2 | しまりあり、炭化物粒混入、黒褐色土との混合土 |
| 第6層 | 黒褐色土 10 YR 3/2 | しまりあり、炭化物粒混入 |
| 第7層 | 黒褐色土 10 YR 3/2 | しまりあり、粘褐色土との混合土 |
| 第8層 | 黒褐色土 10 YR 3/2 | しまりあり、浮石微量混入 |

第22図 第4号竪穴住居跡



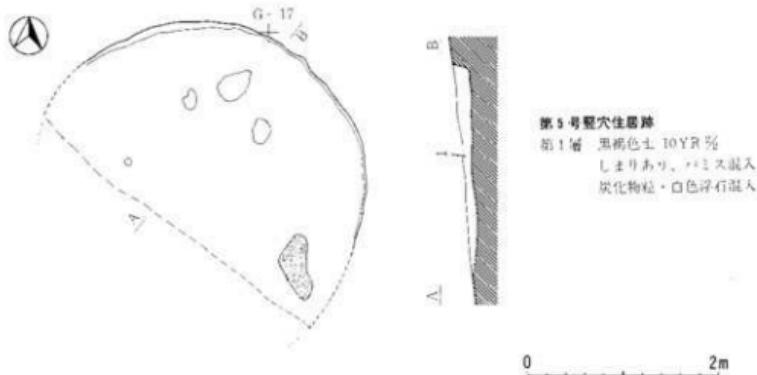
第23図 第4号竪穴住居跡

石を混入する。全体にしまりが認められる。

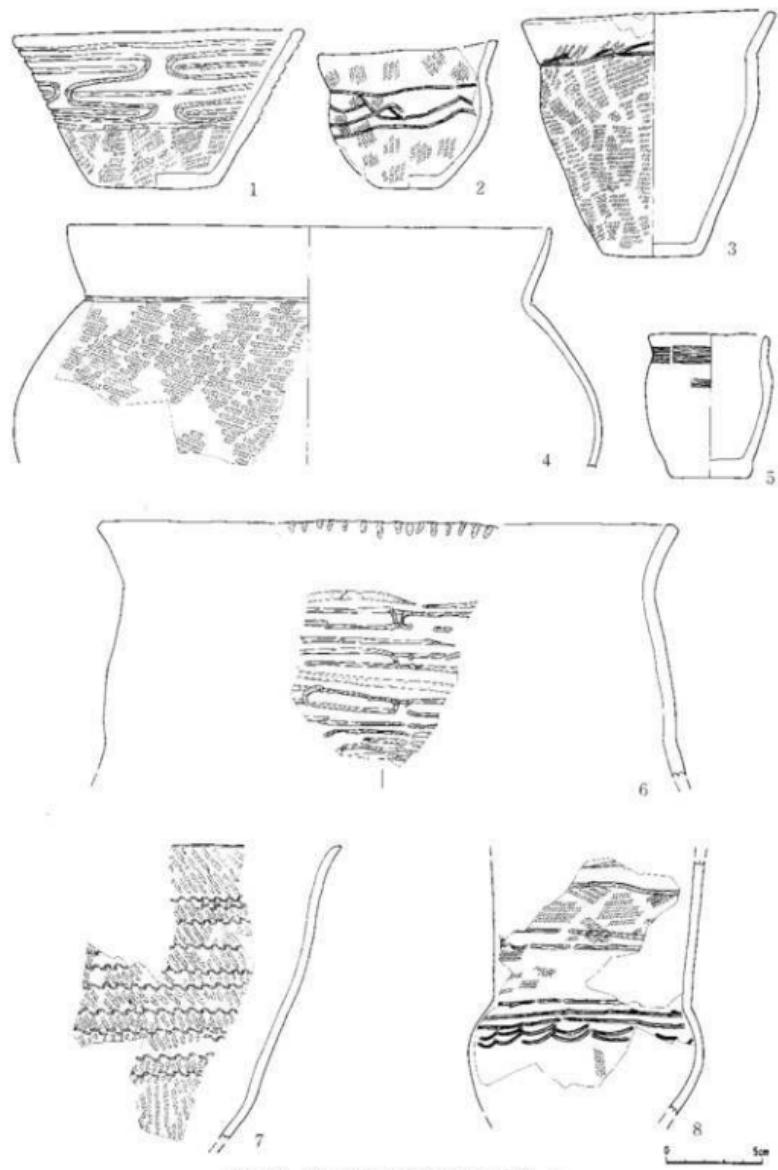
〔出土遺物〕 遺物の出土量は少量である。

土器は、縄文時代後期の土器と弥生時代の土器が出土している。石器の出土は認められなかつたが、剥片及び小礫は若干量出土している。

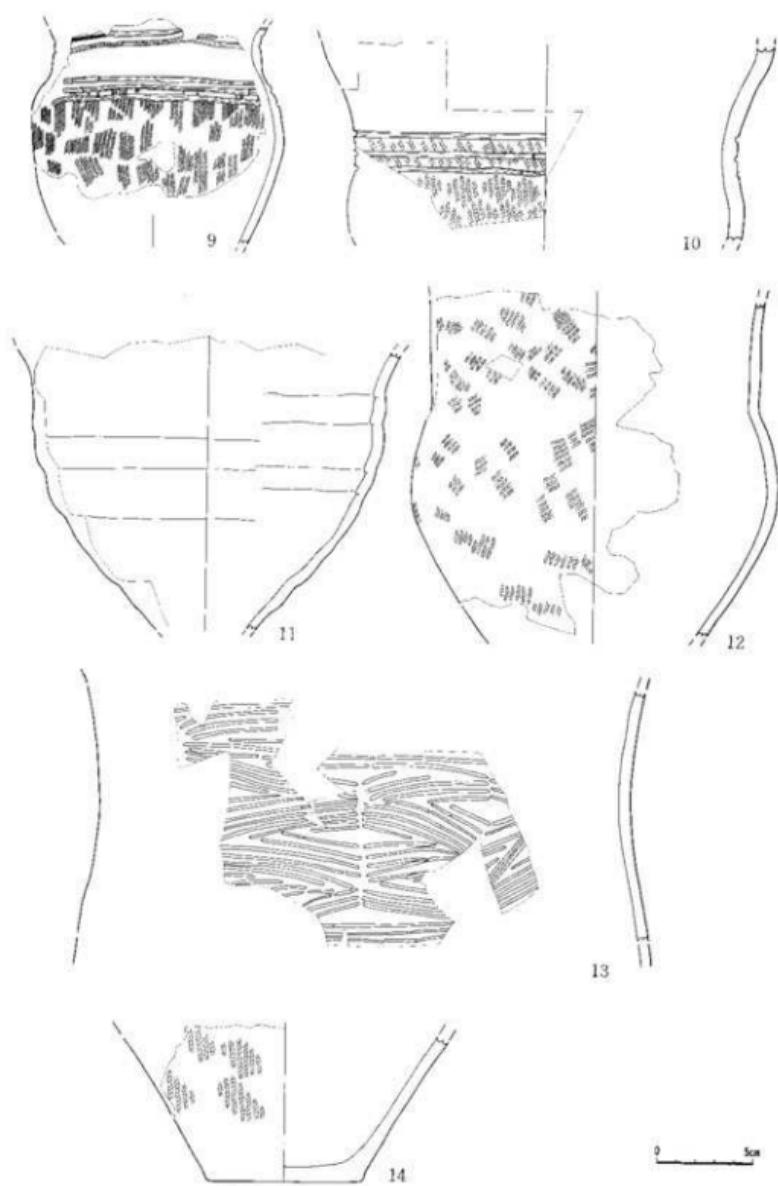
〔造構の時期〕 出土土器から、縄文時代後期以降と推定される。 (白鳥 文雄)



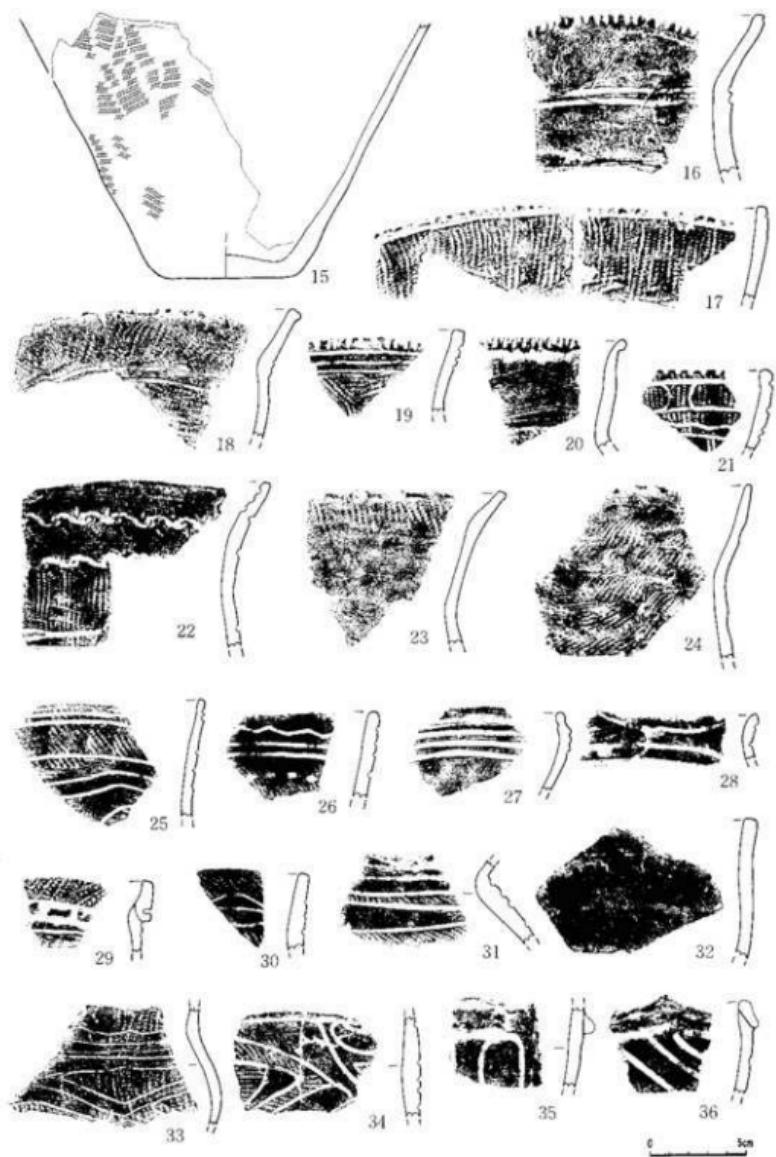
第24図 第5号竪穴住居跡



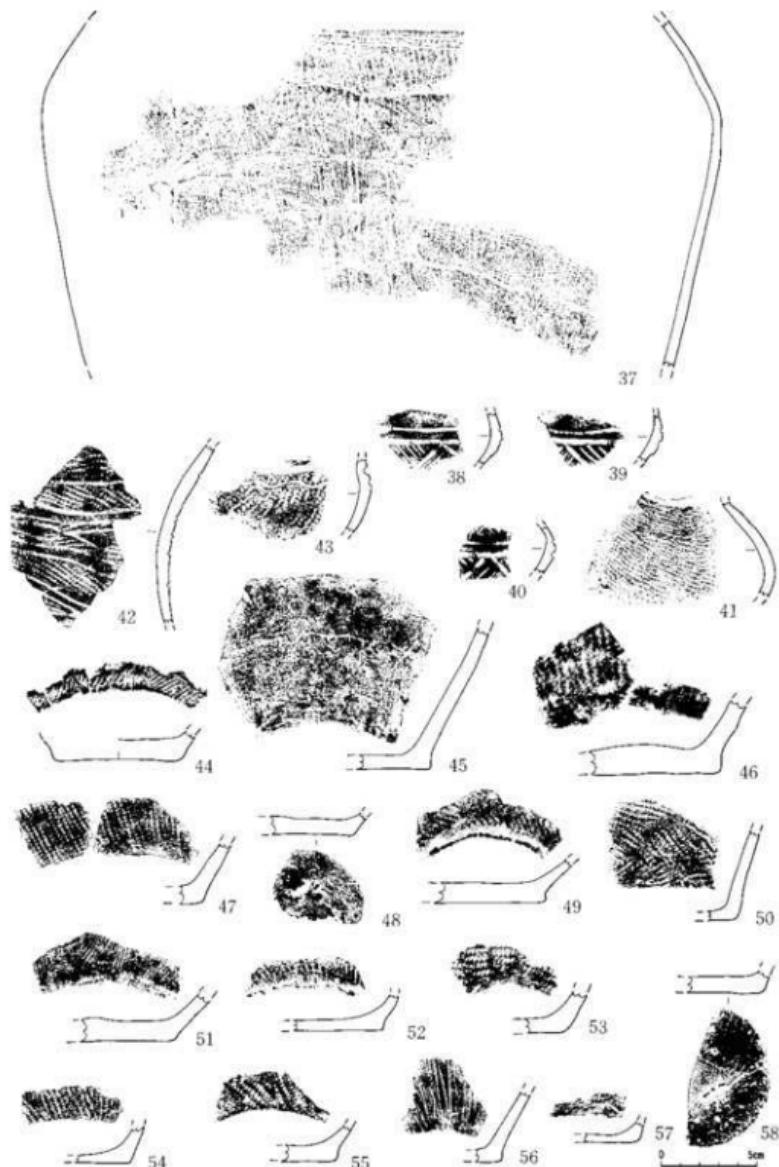
第25図 第4号竪穴住居跡出土土器-1



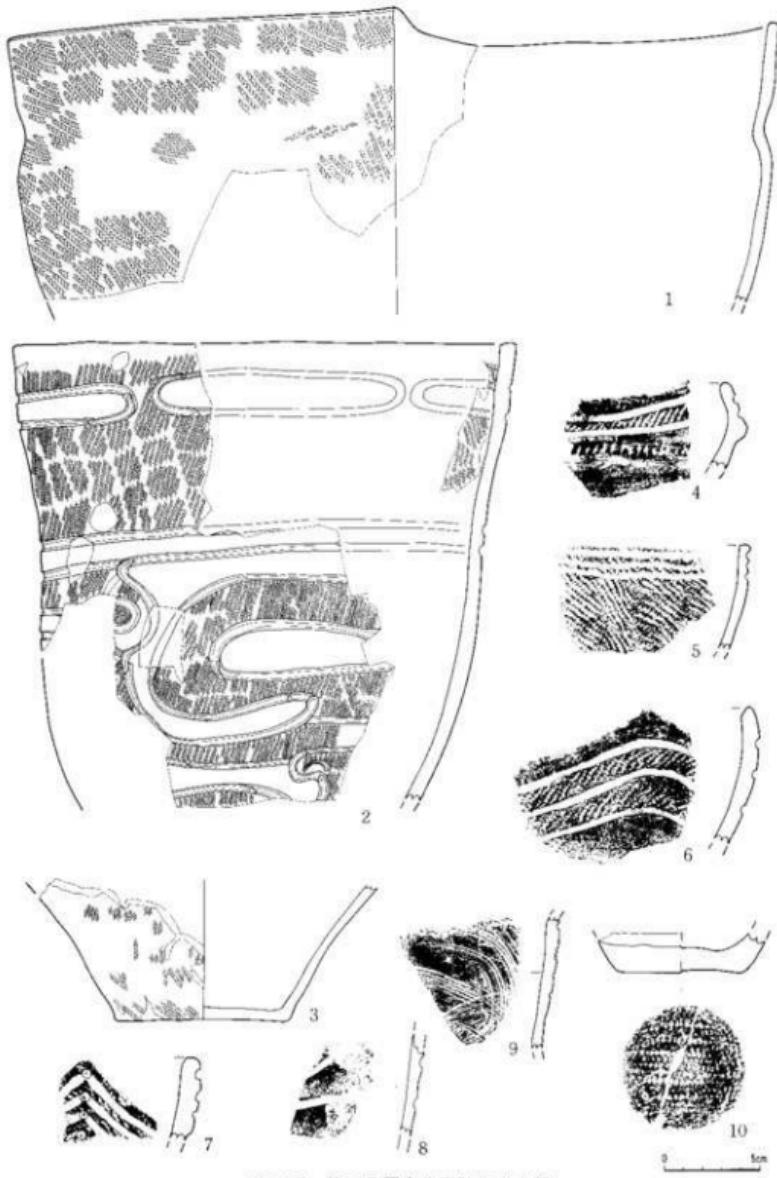
第26図 第4号竪穴住居跡出土土器－2



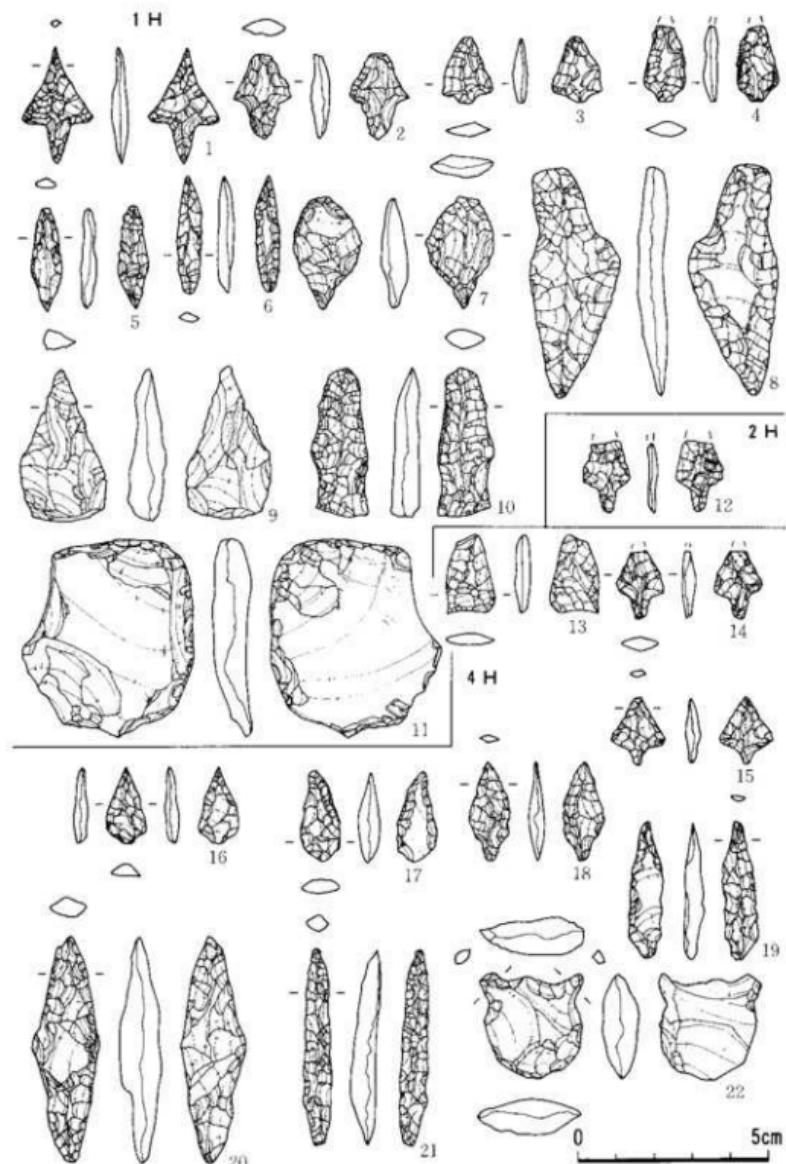
第27図 第4号竪穴住居跡出土土器-3



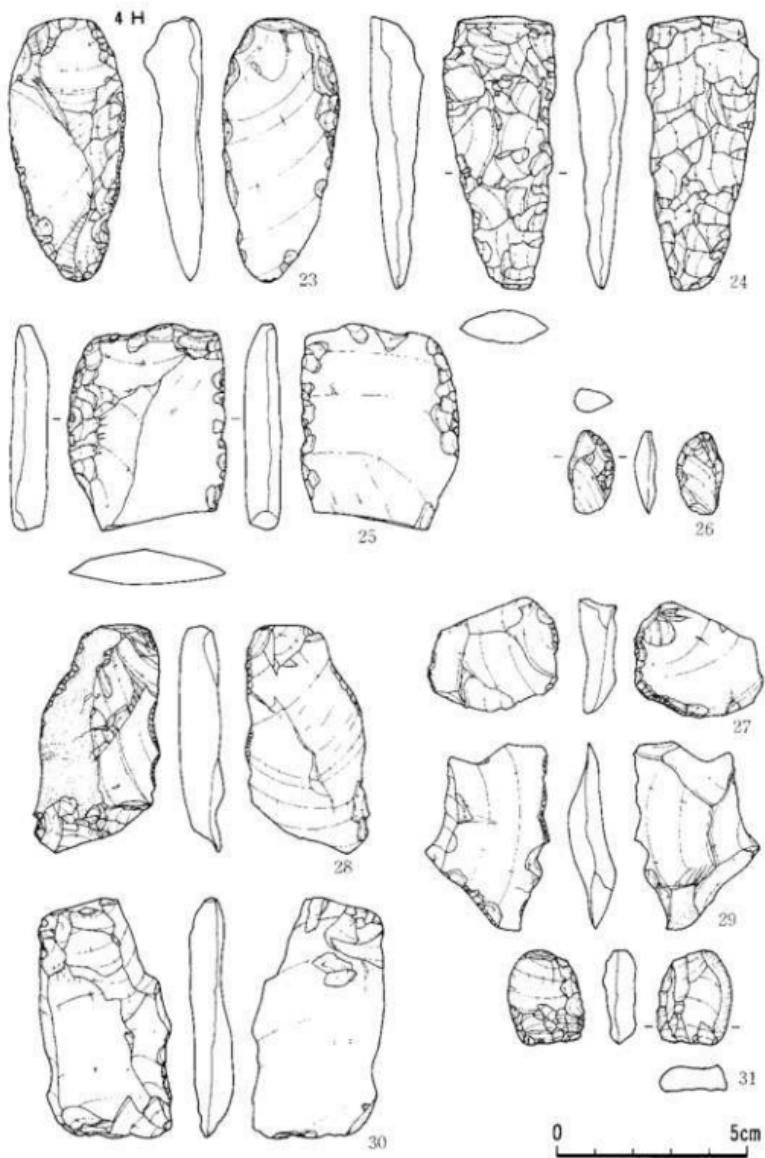
第28図 第4号竪穴住居跡出土土器-4



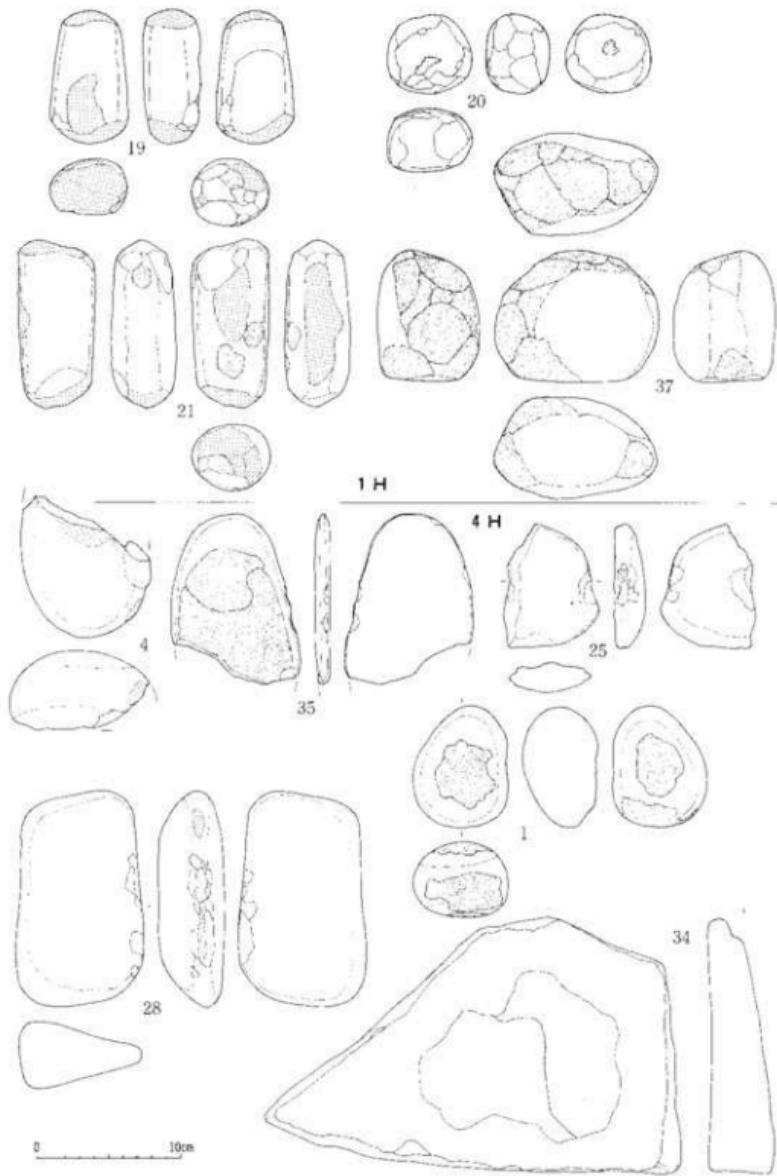
第29図 第5号竪穴住居跡出土土器



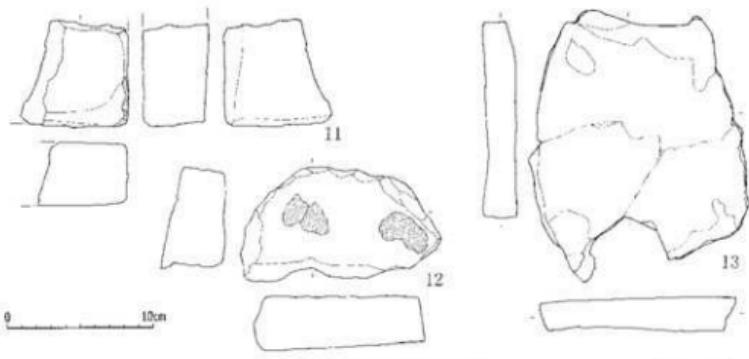
第30図 遺構内出土石器(第1・2・4号住居跡)



第31図 遺構内出土石器(第4号住居跡)



第32図 造構内出土石器－3



第33図 遺構内出土石器

2 土 壤

6基検出した。第5・6号土壌は欠番である。

第1号土壌 (第34・35図)

〔位置と確認〕 H-14・15グリッドに位置する。第IV層で、径100cm程の黒褐色土の広がりとして確認した。西壁の一部が耕作による攪乱を受けている。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 開口面で110cm×108cm、底面で120cm×114cm、深さ64cmである。平面形状は円形であり、断面形状は筒状を呈する。

〔壁〕 第IV～V層を壁とし、ほぼ垂直に立ち上がる。全体に堅緻である。

〔底面〕 第V層を底面とし、平坦で、堅緻である。

〔堆積土〕 5層に分層される。黒色土を基調とし、全体に中振浮石及び南部浮石が混入している。全体にかたくしまっている。人為的堆積と考えられる。

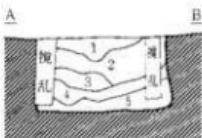
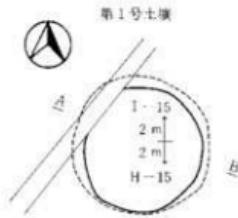
〔遺物〕 覆土中より土器片が数片出土した。

第2号土壌 (第34・35図)

〔位置と確認〕 F-12グリッドに位置する。第IV層で、径100cm程の暗茶褐色土の広がりとして確認した。南西壁及び遺構の一部分は、耕作による攪乱を受けている。

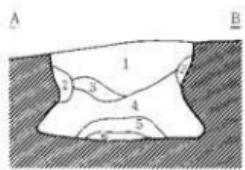
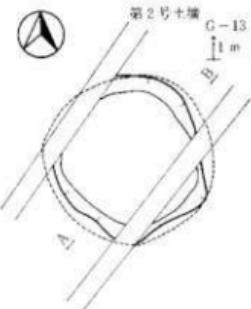
〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 開口面で128cm×102cm、底面で148cm×140cm、深さ85cmである。平面形は不整な円形であり、断面形状はフラスコ状を呈する。



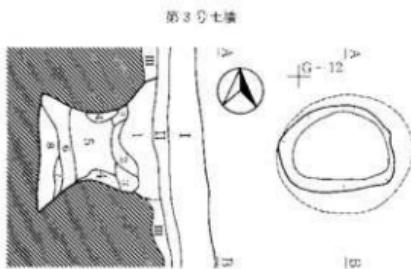
第1号土壤

- 第1層 黒褐色土 10YR 5% かたくしまりあり。
炭化物粒混入
第2層 黒色土 10YR 5% かたくしまりあり。
炭化物粒混入
第3層 黑色土 10YR 5% かたくしまりあり。
炭化物粒混入
第4層 黑色土 10YR 5% かたくしまりあり。
炭化物粒混入
第5層 黑色土 10YR 5% かたくしまりあり。



第2号土壤

- 第1層 黒褐色土 10YR 5% やわらかい。
壁の崩落土
第2層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくしまりなし
第3層 黑褐色土 10YR 5% しまりなし・もろい
第4層 黑褐色土 10YR 5% しまりなし・もろい
第5層 黑褐色土 10YR 5% かたくしまりあり
第6層 黑褐色土 10YR 5% かたくしまりあり



第3号土壤

- 第1層 黑褐色土 10YR 5% かたくしまりあり
第2層 黑褐色土 10YR 5% かたくしまりあり
第3層 暗褐色土 10YR 5% かたくしまりあり・黑褐色土との混合土
第4層 暗褐色土 10YR 5% かたくしまりあり・黑褐色土との混合土
第5層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくしまりなし
第6層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくしまりなし
第7層 暗褐色土 10YR 5% やわらかくしまりなし・褐色土との混合土
第8層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくしまりなし



第4号土壤

- 第1層 黒色土 10YR 5% やわらかくもろい
第2層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくもろい
第3層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくもろい
第4層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくもろい
第5層 黑褐色土 10YR 5% やわらかくもろい

第34図 第1号～第4号土壤

〔規模と形状〕 開口面で130cm×126cm、底面で137cm×120cm、深さ120cmである。平面形状は不整な円形であり、断面形状は筒状を呈する。

〔壁〕 第V～VI層を壁とし、南壁は内湾する。全体に堅緻である。

〔底面〕 第VI層を底面とし、平坦で、堅緻である。

〔堆積土〕 8層に分層される。黒褐色土を基調とし、全体に中振浮石及び南部浮石が混入しており、最上層には炭化物粒が混入している。全体にかたくしまっている。人為的堆積と考えられる。

〔遺物〕 出土しなかった。

第8号土壤 (第36図)

〔位置と確認〕 F-18グリッドに位置する。第4号住居跡の精査中に、径約150cm程の黒褐色土の広がりとして確認した。西壁及び遺構の西側は第8号溝状ピットに切られており、不明である。

〔重複〕 第4号住居跡と重複し、本土壙が古い。また、第8号溝状ピットとも重複し、本土壙が古い。

〔規模と形状〕 開口面で最大径162cm、底面で133cm、深さ78cmである。平面形は円形であると考えられる。断面形状は筒状を呈する。

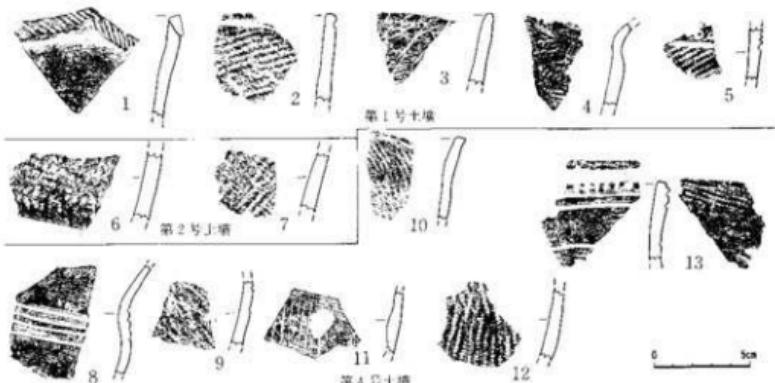
〔壁〕 第V～VI層を壁としている。上部はやや脆い。

〔底面〕 第VI層を底面とし、若干起伏は認められるが、ほぼ平坦で堅緻である。

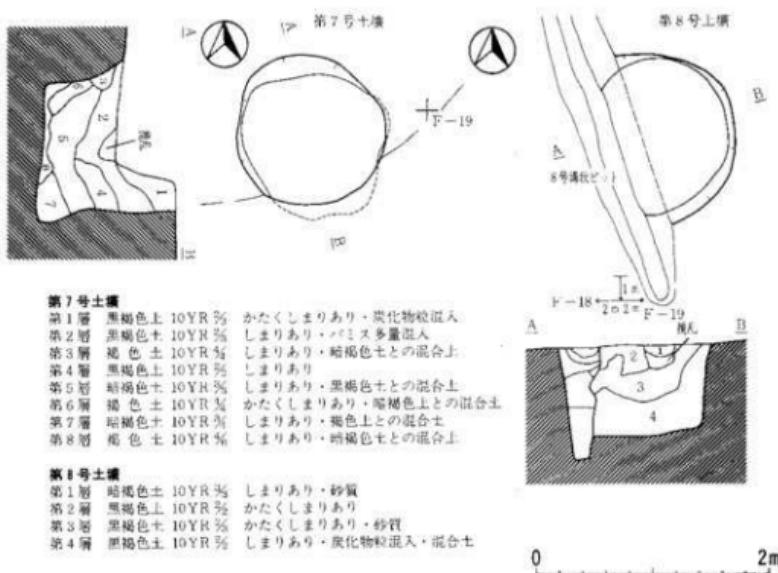
〔堆積土〕 4層に分層される。黒褐色土を基調としており、中振浮石及び南部浮石が混入している。全体にかたくしまりがある。人為的堆積と考えられる。

〔遺物〕 出土しなかった。

(白鳥 文雄)



第35図 第1・2・4号土壤出土土器



第36図 第7・8号土壌

3 溝状ビット

第1号溝状ビット (第37図)

〔位置と確認〕 F-49・50グリッドに位置し、第IV層で黒色土の広がりとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 開口面は353cm×45cm、底面は337cm×10cmの長楕円形を呈する。深さは58～65cmである。短軸断面上では細長いV字状を呈している。長軸方位はN-80°-Wである。

〔壁〕 第VI・VII層を壁としており、上部はやや脆いものの、下部は堅緻である。

〔底面〕 第VII層を底面としており、西側に傾斜している。

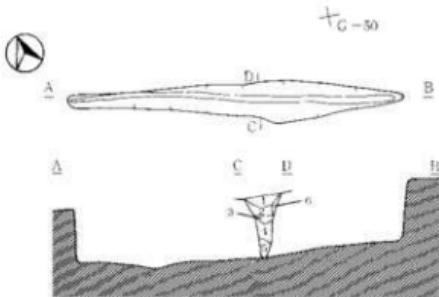
〔堆積土〕 6層に分層できた。黒褐色土を基調としており、全体にしまりが弱くやわらかい。

〔造構の時期〕 構築時の掘り込み最上部は不明であるが、確認時には、第IV層を掘り込んでいたことが明確であることから中振浮石の降下時期よりは新しい。

第2号溝状ビット (第37図)

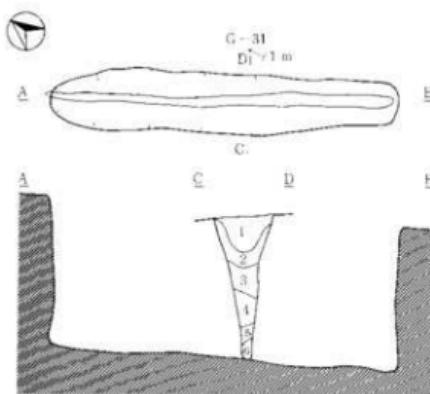
〔位置と確認〕 F・G-30・31グリッドに位置し、第VI層で黒色土の広がりとして確認した。

〔重複〕 なし。



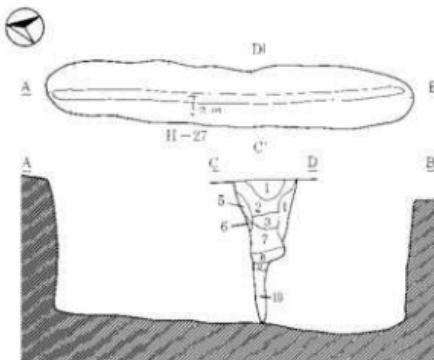
第1号溝状ピット

- 第1層 黒色土 10YR 5%
- 第2層 黑褐色土 10YR 5%
- 第3層 黑褐色土 10YR 5%
- 第4層 喀斯特土 10YR 5%
- 第5層 黑褐色土 10YR 5%
- 第6層 喀斯特土 10YR 5%



第2号溝状ピット

- 第1層 黑褐色土 10YR 5%
- 第2層 黑褐色土 10YR 5%
- 第3層 黑色土 10YR 5%
- 第4層 喀斯特土 10YR 5%
- 第5層 黑褐色土 10YR 5%
- 第6層 黑色土 10YR 5%

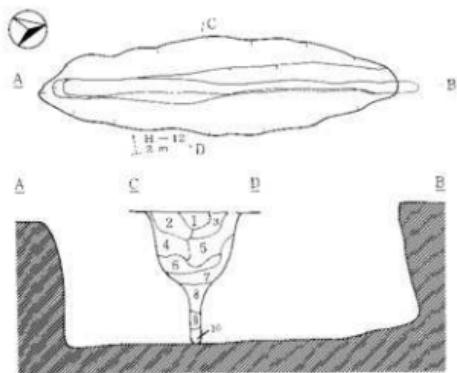
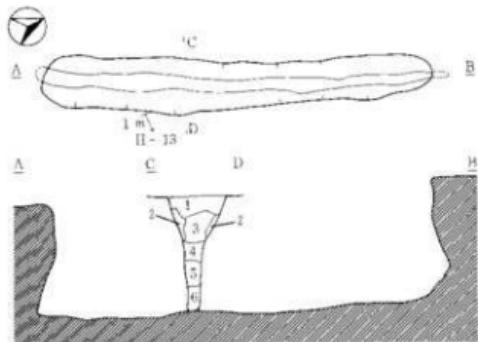
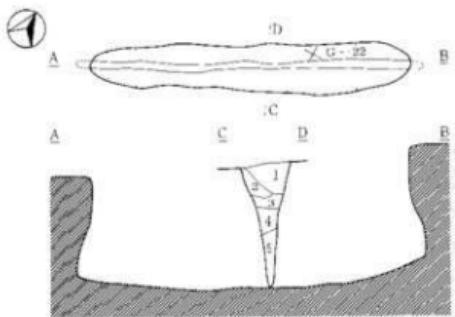


第3号溝状ピット

- 第1層 黑色土 10YR 5%
- 第2層 黑褐色土 10YR 5%
- 第3層 黑褐色土 10YR 5%
- 第4層 黑褐色土 10YR 5%
- 第5層 黑褐色土 10YR 5%
- 第6層 喀斯特土 10YR 5%
- 第7層 喀斯特土 10YR 5%
- 第8層 喀斯特土 10YR 5%
- 第9層 喀斯特土 10YR 5%
- 第10層 喀斯特土 10YR 5%

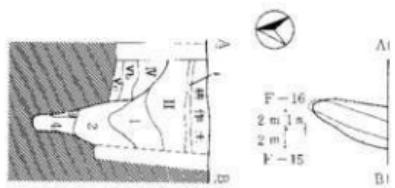
第37図 第1号～第3号溝状ピット

0 2m



第38図 第4号～第6号溝状ピット

0 2m



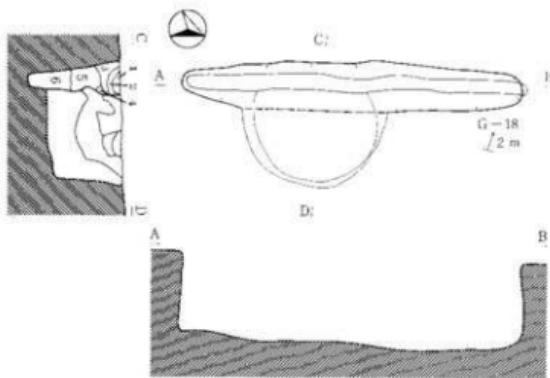
第7号溝状ピット

第1層 黒色土 10YR 5%

第2層 黑褐色土 10YR 5%

第3層 暗褐色土 10YR 5%

第4層 黑褐色土 10YR 5%



第8号溝状ピット

第1層 黑褐色土 10YR 5%

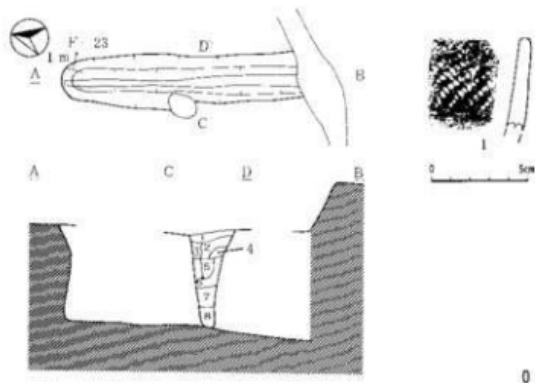
第2層 黑褐色土 10YR 5%

第3層 黑褐色土 10YR 5%

第4層 黑褐色土 10YR 5%

第5層 黑褐色土 10YR 5%

第6層 黑褐色土 10YR 5%



第9号溝状ピット

第1層 黑褐色土 10YR 5%

第2層 黑褐色土 10YR 5%

第3層 黑褐色土 10YR 5%

第4層 黑褐色土 10YR 5%

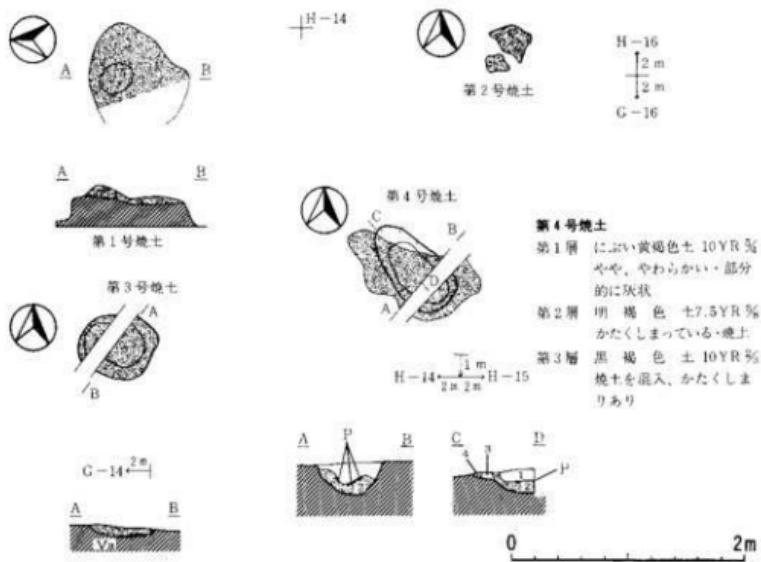
第5層 灰褐色土 10YR 5%

第6層 褐色土 10YR 5%

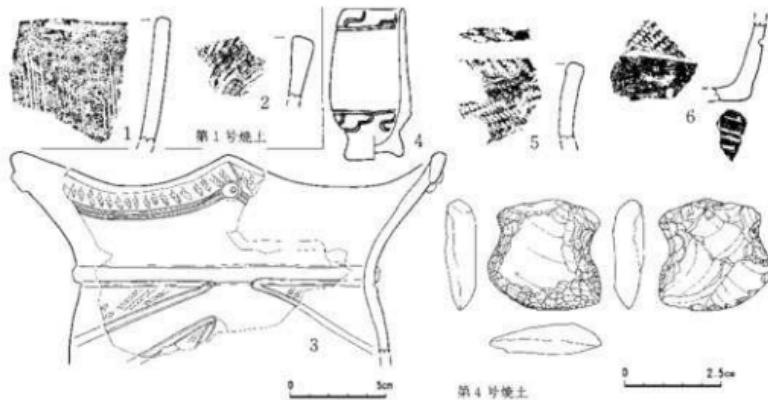
第7層 灰褐色土 10YR 5%

第8層 黑褐色土 10YR 5%

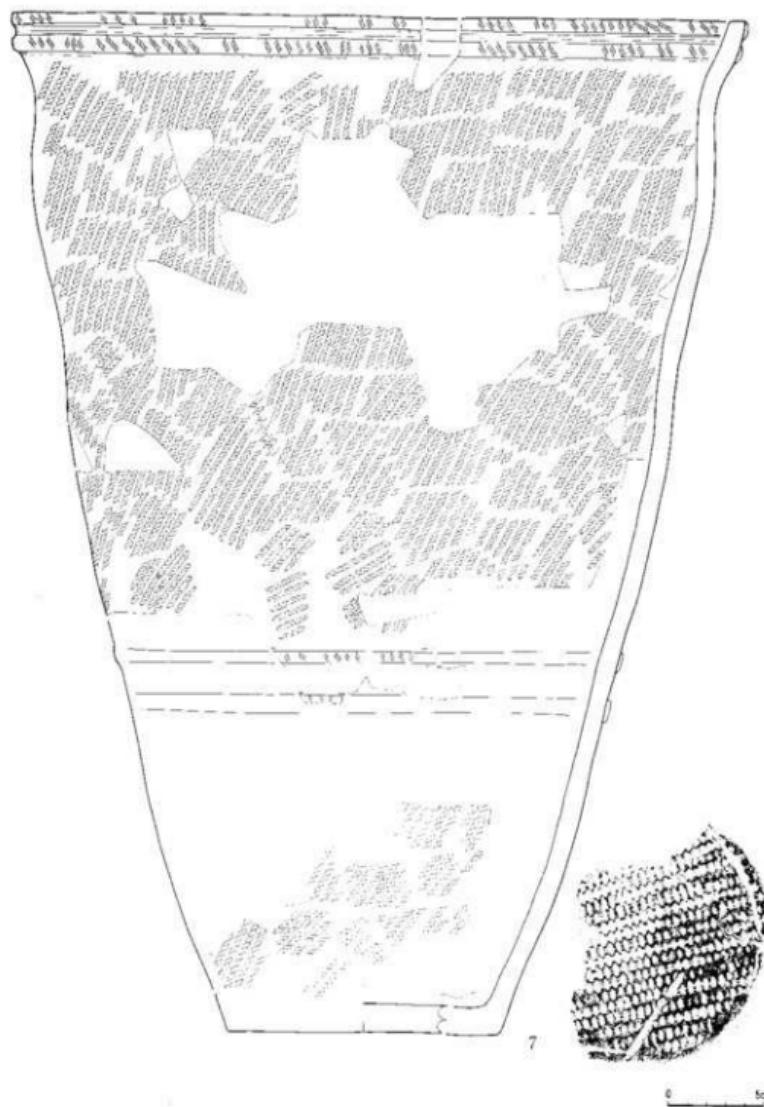
第39図 第7号～第9号溝状ピット



第40図 第1号～第4号焼土



第41図 焼土出土遺物-1



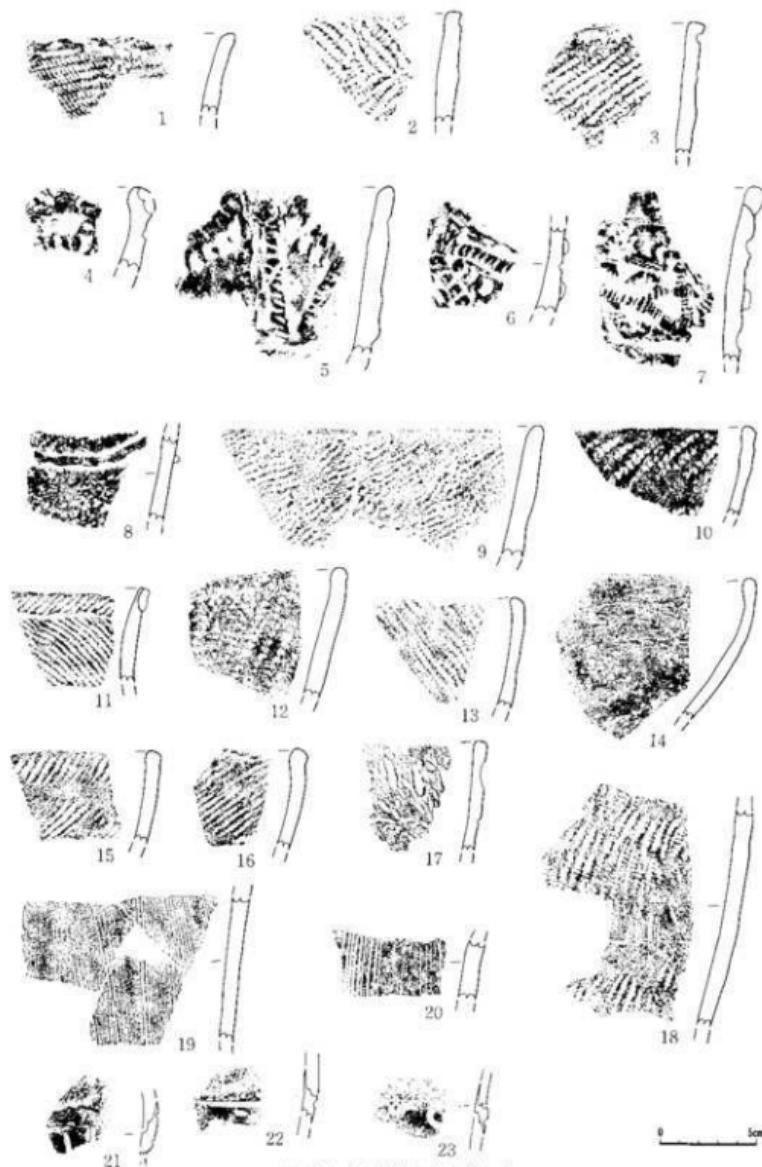
第42図 焼土出土遺物－2 (4号焼土)

第8表 遺構内出土土器觀察表

番号	出土地点	層	部 位	外面施文文様	内面	分類
16区- 1	1号住居跡	覆	口縁~側部	平行・重菱形・山形沈線+刺突+繩文(R.L.)	口唇部に繩文	VII
16区- 2	1号住居跡	覆	口縁~側部	無 文		VII
17区- 3	1号住居跡	覆	口 ~ 肩 部	沈線+繩文 赤色顔料付着		V
17区- 4	1号住居跡	床直	口 ~ 肩 部	沈線+繩文		V
17区- 5	1号住居跡	覆	肩部~底部	繩 文		VII
17区- 6	1号住居跡	2	口縁~底部	沈線+繩文		VII
17区- 7	1号住居跡	覆	口縁~側部 刺目+沈線+繩文			VII
17区- 8	1号住居跡	覆	側 部	無 文		VII
17区- 9	1号住居跡	覆	底 部	無 文		VII
17区- 10	1号住居跡	覆	口 縁 部	沈線+繩文	沈線 1条	V
17区- 11	1号住居跡	覆	口 縁 部	沈 線	沈線 1条	V
17区- 12	1号住居跡	床直	口 縁 部	無文+繩文		V
17区- 13	1号住居跡	2	口 縁 部	繩文+沈線 鳥み口		VII
17区- 14	1号住居跡	覆	口 縁 部	繩文+沈線	口唇部に繩文	VII
17区- 15	1号住居跡	覆	口 縁 部	鷺み口+沈線		VII
17区- 16	1号住居跡	覆	底 部	沈 線		VII
17区- 17	1号住居跡	2	口 基 部	繩 文	口基部に繩文	VII
17区- 18	1号住居跡	覆	側 部	重菱形文		VII
17区- 19	1号住居跡	覆	側 部	繩文+沈線		VII
17区- 20	1号住居跡	2		土製品?		—
17区- 21	1号住居跡	覆		蓋		VII
19区- 1	2号住居跡	覆	口 縁 部	無文・みがき		V
19区- 2	2号住居跡	床	口縁~底部	繩文+平行沈線		V
19区- 3	2号住居跡	覆	口縁~底部	繩文+変形工字文		VII
19区- 4	2号住居跡	覆	口縁~側部	重菱形文+刺目 口發小波状+小孔+繩文	繩文 帯	VII
19区- 5	2号住居跡	床	底部~側部	繩 文		—
19区- 6	2号住居跡	覆	側 部	繩文+沈線		VII
19区- 7	2号住居跡	床直	口 縁 部	繩文+沈線+刺目		VII
19区- 8	2号住居跡	覆	口 縁 部	繩文 口唇部繩文		VII
19区- 9	2号住居跡	覆	口 縁 部	繩文+沈線 口唇部繩文		VII
19区- 10	2号住居跡	覆	口 縁 部	繩文+沈線 小波状口縁		V
19区- 11	2号住居跡	床直	側 部	繩文+沈線+貼付		V
19区- 12	2号住居跡	覆	底 部	繩 文		VII
19区- 13	2号住居跡	覆	底 部	繩文+沈線		VII
19区- 14	2号住居跡	覆	底 部	繩 文		VII
19区- 15	2号住居跡	覆	底 部	繩 文		V
19区- 16	2号住居跡	覆	底 部	繩 文		V
19区- 17	2号住居跡	覆	底 部	繩 文		VII
21区- 1	3号住居跡	覆	口 縁 部	沈線 小波状口縁		—
21区- 2	3号住居跡	覆	口 縁 部	沈 線		IV?
21区- 3	3号住居跡	覆	側 部	繩文+沈線		VII
21区- 4	3号住居跡	覆	側 部	繩文+沈線		IV?
23区- 1	4号住居跡	覆	口 縁 ~ 底部	沈線(変形工字文)+繩文	沈 線	V
23区- 2	4号住居跡	覆	口 縁 ~ 底部	沈線+繩文		VII
23区- 3	4号住居跡	覆	口 縁 ~ 底部	沈線+繩文		VII
23区- 4	4号住居跡	覆	口 縁 ~ 肩 部	繩文 頭部に沈線		V

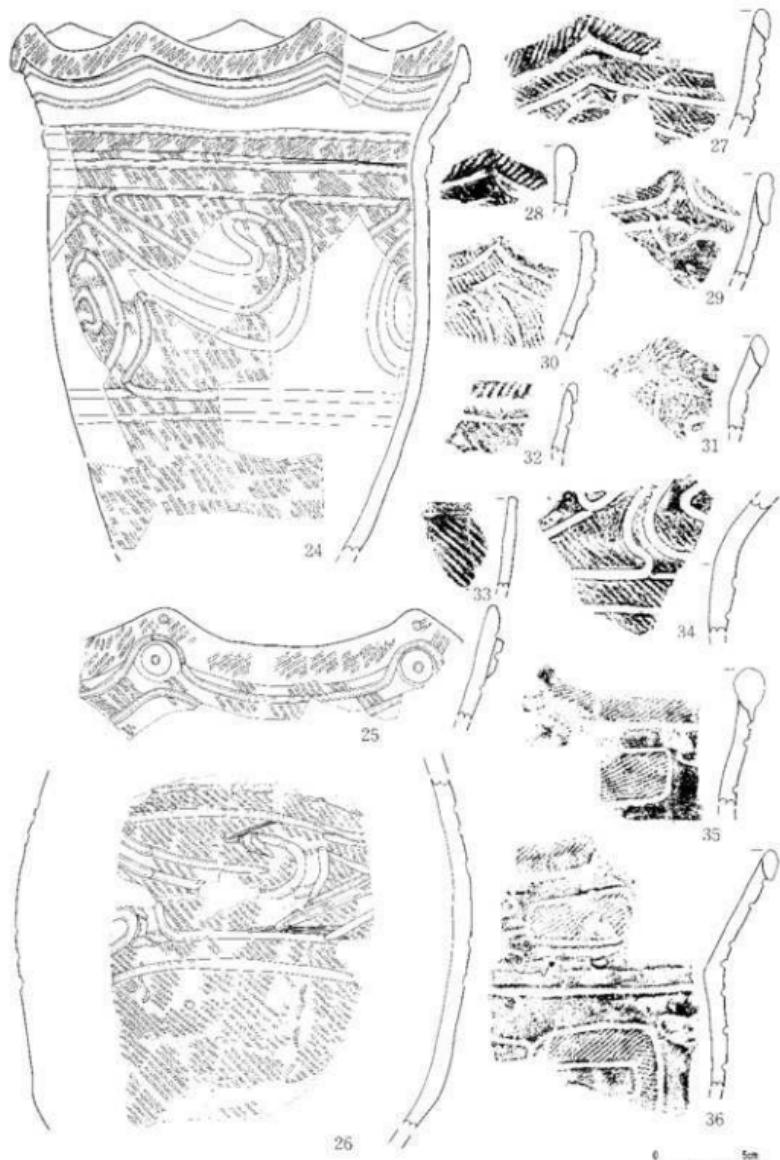
25回 - 5	4号住居跡	覆	口縁～底部	無文 縫部にヘラナテ		IV?
25回 - 6	4号住居跡	覆	口縁～肩部	沈線+刻目		VI
25回 - 7	4号住居跡	覆	口縁部	縑文・縑緋文 口唇部に縑文		VI
25回 - 8	4号住居跡	覆	口縁～胸部	縑文+沈線		VI
26回 - 9	4号住居跡	床直	口縁～胸部	沈線+縑文		VI
26回 - 10	4号住居跡	覆	口縁～胸部	沈線+縑文		VI
26回 - 11	4号住居跡	覆	口縁～胸部	無文		VI
26回 - 12	4号住居跡	床直	口縁～胸部	縑文		VI
26回 - 13	4号住居跡	覆	口縁部	沈線(重疊形文)		VI
26回 - 14	4号住居跡	覆	底部	縑文		VI
27回 - 15	4号住居跡	覆	底部	縑文		VI
27回 - 16	4号住居跡	1	口縁部	沈線・口縁部に粘土粒貼付 口唇部刻目		VI
27回 - 17	4号住居跡	覆	口縁部	縑文・沈線 口唇部刻目+縑文		VI
27回 - 18	4号住居跡	1	口縁部	縑文+沈線 口唇部刻目		VI
27回 - 19	4号住居跡	覆	口縁部	縑文+沈線 口唇部刻目+縑文		VI
27回 - 20	4号住居跡	覆	口縁部	無文・肩部縑文 口唇部に外面と上部からの刻目		VI
27回 - 21	4号住居跡	1	口縁部	縑文+沈線 口唇部刻目+縑文		VI
27回 - 22	4号住居跡	覆	口縁部	縑文+沈線(縑緋文) 口唇部縑文		VI
27回 - 23	4号住居跡	覆	口縁部	縑文 口唇部指頭压痕+縑文		VI
27回 - 24	4号住居跡	口縁部	縑文 口唇部指頭压痕			VI
27回 - 25	4号住居跡	2	口縁部	縑文+沈線 口唇部縑文		VI
27回 - 26	4号住居跡	覆	口縁部	縑文+沈線+刺突 口唇部縑文		VI
27回 - 27	4号住居跡	覆	口縁部	沈線 みがき	沈線1条	V
27回 - 28	4号住居跡	覆	口縁部	沈線 みがき 小波状口縁		V
27回 - 29	4号住居跡	覆	口縁部	縑文+沈線+粘付		VI?
27回 - 30	4号住居跡	覆	口縁部	縑文+沈線		VI
27回 - 31	4号住居跡	覆	肩部	縑文+沈線(透消)		VI
27回 - 32	4号住居跡	覆	口縁部	無文		V
27回 - 33	4号住居跡	1	肩部	縑文+沈線		VI
27回 - 34	4号住居跡	覆	肩部	縑文+沈線(透消)		VI
27回 - 35	4号住居跡	覆	側部	沈線 赤色顔料付着		VI
27回 - 36	4号住居跡	口縁部	沈線+貼付带			VI
28回 - 37	4号住居跡	覆	側部	沈線+微凹状沈線		
28回 - 38	4号住居跡	覆	側部	沈線		N-3
28回 - 39	4号住居跡	覆	側部	沈線 同一部体		N-3
28回 - 40	4号住居跡	覆	側部	沈線		N-3
28回 - 41	4号住居跡	覆	側部	縑文+沈線		V
28回 - 42	4号住居跡	2	口縁部?	縑文+沈線(透消)		VI
28回 - 43	4号住居跡	脇	部	縑文+沈線		VI
28回 - 44	4号住居跡	床直	底部	縑文		
28回 - 45	4号住居跡	覆	底部	無文		
28回 - 46	4号住居跡	覆	底部	縑文		
28回 - 47	4号住居跡	底	部	縑文		
28回 - 48	4号住居跡	底	部	縑文		
28回 - 49	4号住居跡	覆	底部	縑文		
28回 - 50	4号住居跡	覆	底部	縑文		
28回 - 51	4号住居跡	覆	底部	縑文		
28回 - 52	4号住居跡	底	部	縑文		

28回 - 53	4号住居跡	龜 部	繩 文		
28回 - 54	4号住居跡	瓦 部	繩 文		
28回 - 55	4号住居跡	覆 部	繩 文		
28回 - 56	4号住居跡	底 部	齒齒狀沈線		
28回 - 57	4号住居跡	覆 底 部	繩 文		
28回 - 58	4号住居跡	底 部	木巢痕		
29回 - 1	5号住居跡	覆 口 線 ~ 刷部	繩 文		V
29回 - 2	5号住居跡	覆 口 線 ~ 刷部	繩文+沈線(磨消)		VI-1
29回 - 3	5号住居跡	底 部	繩 文		
29回 - 4	5号住居跡	底 口 線 部	繩文+沈線+降帶+刻目 波狀口緣		V
29回 - 5	5号住居跡	底 口 線 部	繩文+沈線		V
29回 - 6	5号住居跡	底 口 線 部	繩文+沈線(磨消) 波狀口緣		VI-1
29回 - 7	5号住居跡	底 口 線 部	繩文+沈線+円竹管刺突 波狀口緣		VI-1
29回 - 8	5号住居跡	底 刷 部	沈線 赤色顔料付着		
29回 - 9	5号住居跡	底 刷 部	齒齒狀沈線		
29回 - 10	5号住居跡	底 部	繩代痕		
35回 - 1	1号土塙	4 口 線 部	折近し口縁部に繩文 波狀口緣		VI-1
35回 - 2	1号土塙	底 刷 部	繩文-沈線		
35回 - 3	1号土塙	底 口 線 部	隱系文		
35回 - 4	1号土塙	1 刷 部	繩 文		
35回 - 5	1号土塙	3 刷 部	繩文+円竹管刺突		V
35回 - 6	2号土塙	4 刷 部	繩 文		
35回 - 7	2号土塙	4 刷 部	繩 文		
35回 - 8	4号土塙	2 口 線 部	沈 線		V
35回 - 9	4号土塙	2 刷 部	繩文+沈線		
35回 - 10	4号土塙	2 口 線 部	繩文+綴縫文 口唇部繩文		V
35回 - 11	4号土塙	2 刷 部	齒齒狀沈線		
35回 - 12	4号土塙	2 刷 部	繩 文		
35回 - 13	4号土塙	2 口 線 部	沈線+刻目 口唇部繩文	帶狀繩文	V
41回 - 1	1号燒土	口 線 部	齒齒狀沈線		IV-1
41回 - 2	1号燒土	口 線 部	繩文 波狀口緣		
41回 - 3	4号燒土	口 線 ~ 刷部	磨消繩文+沈線-降帶-粘土粒貼付 波狀口緣		VI-1
41回 - 4	4号燒土	口 線 ~ 底部	沈線 上底		IV
41回 - 5	4号燒土	口 線 部	繩 文 口唇部繩文		
41回 - 6	4号燒土	底 部	繩文+沈線 底部齒齒狀沈線		
42回 - 7	1号燒土	口 線 ~ 底部	繩文+點狀降帶 底部、綴代痕		VII

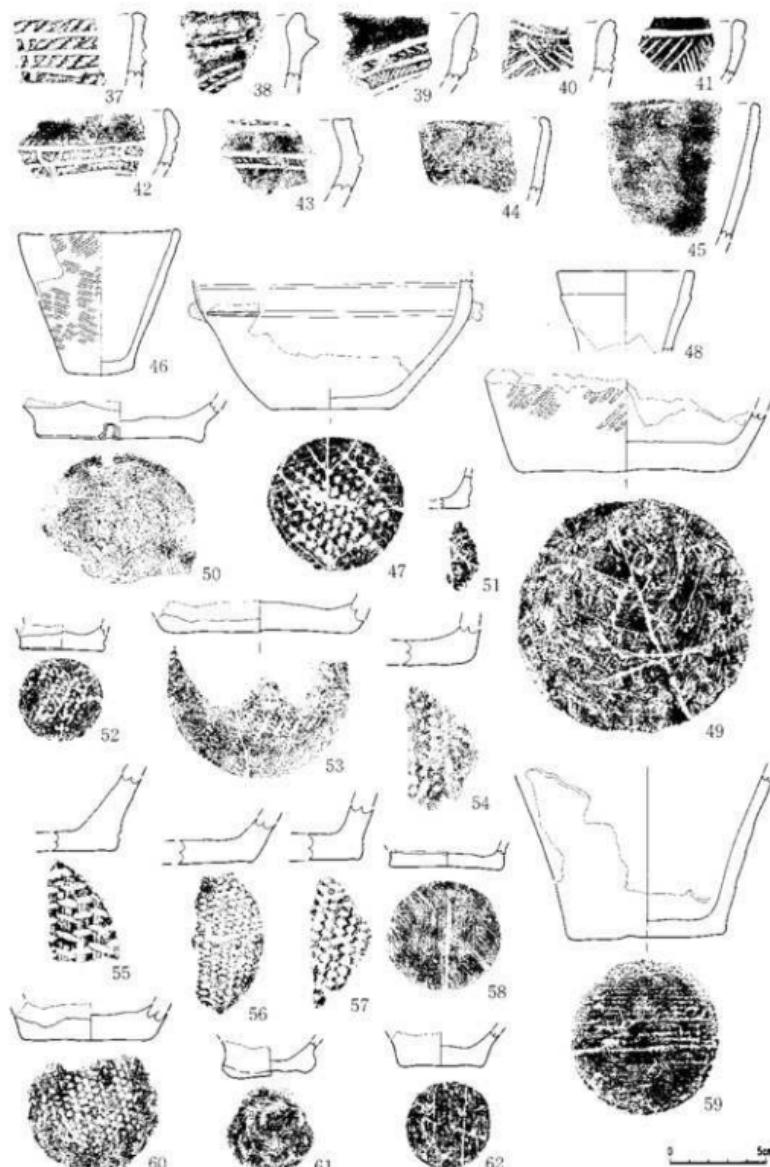


第43図 遺構外出土土器 - 1

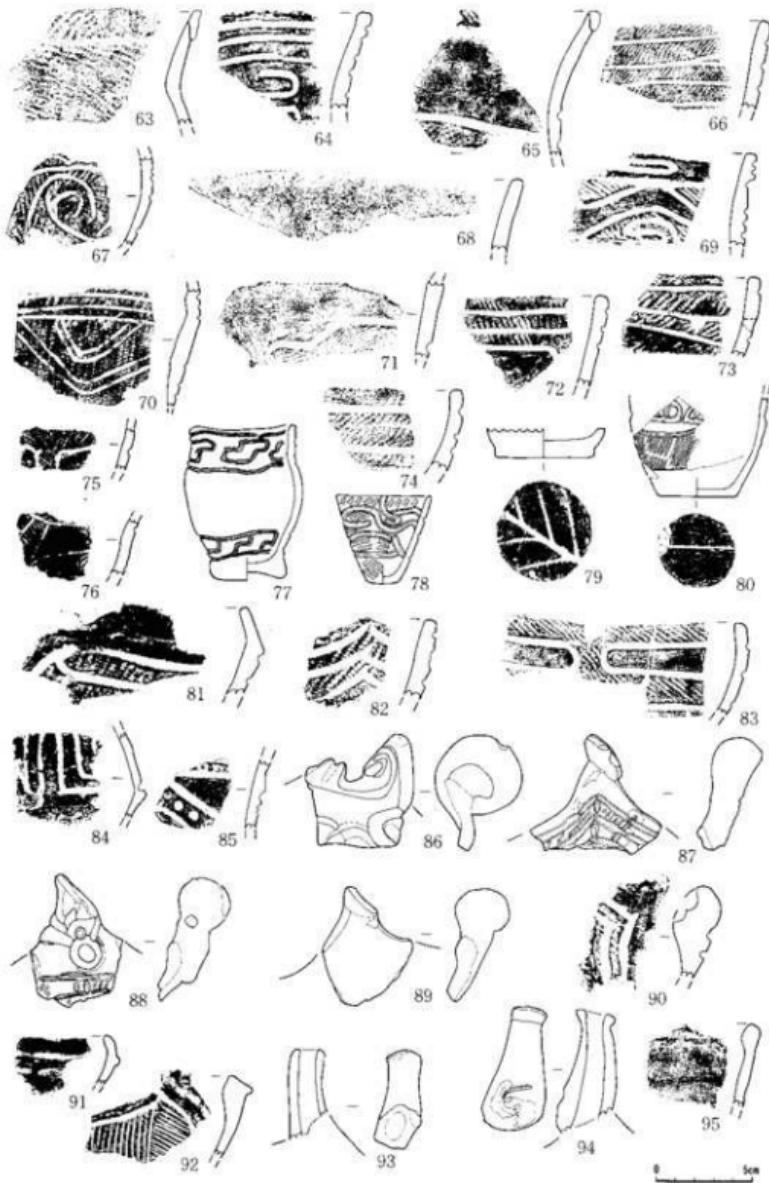
0 5cm



第44図 造構外出土土器 - 2

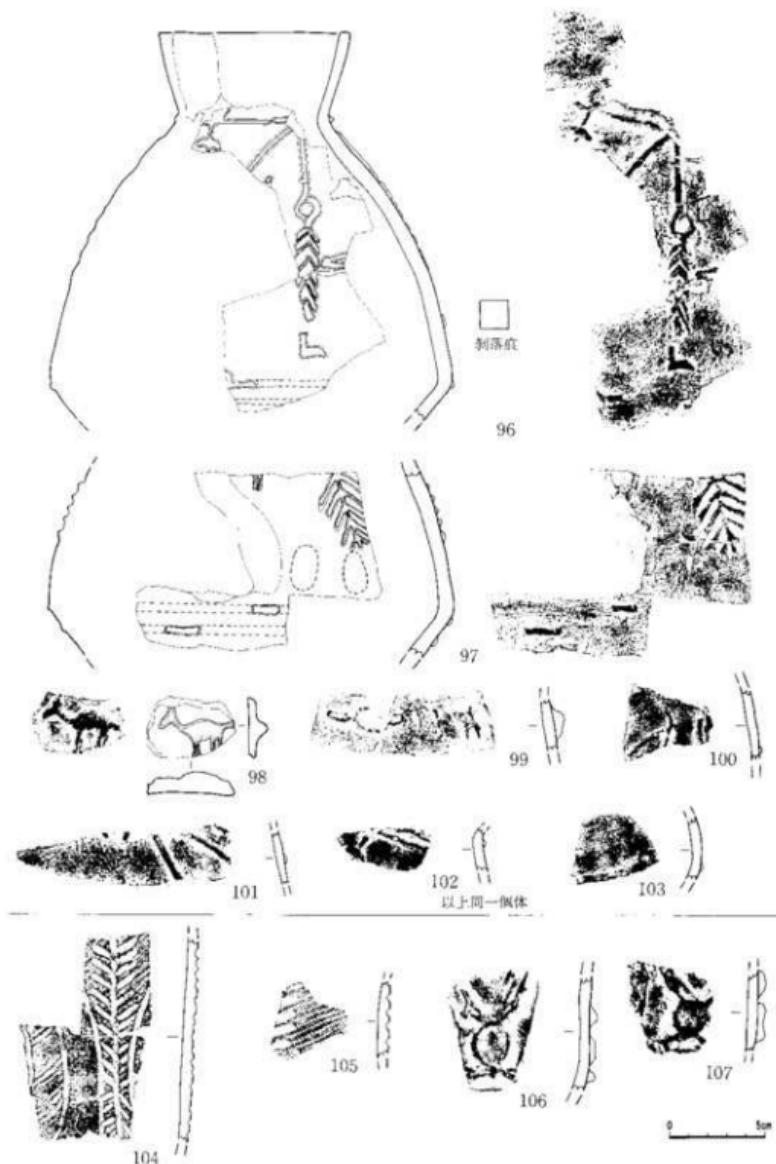


第45図 造構外出土土器 - 3

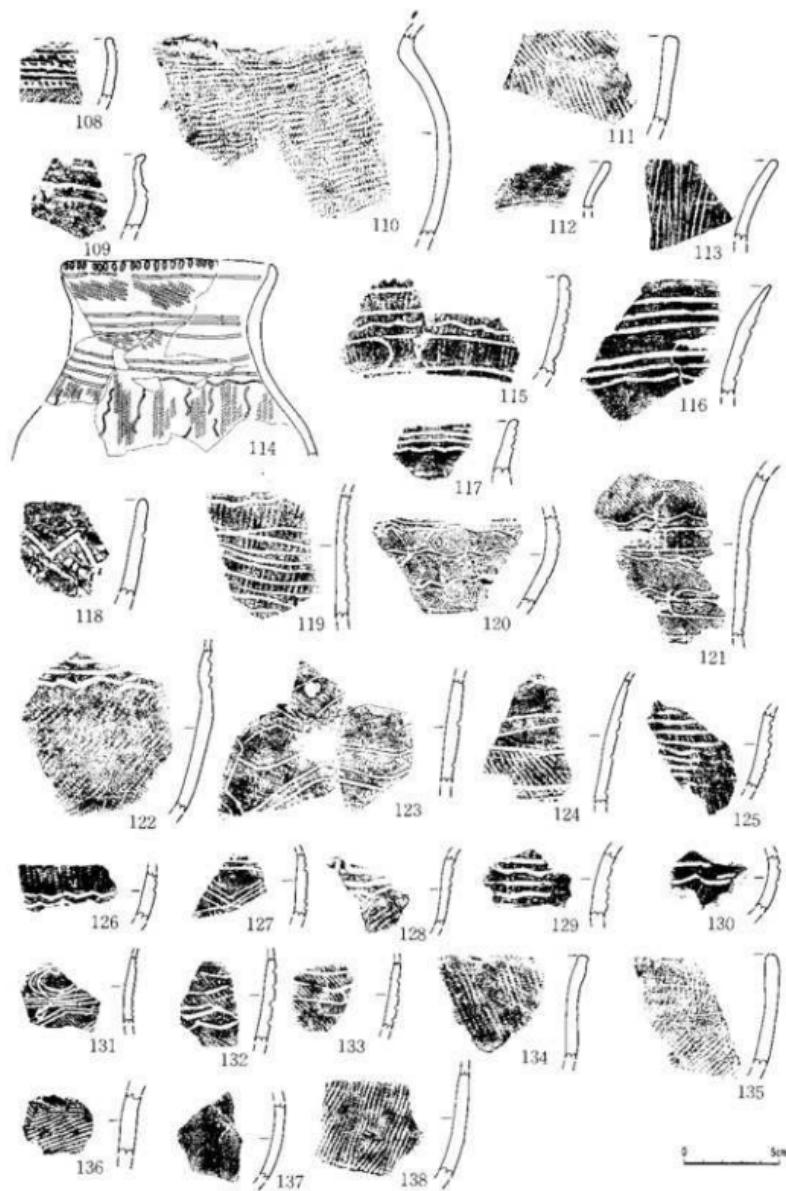


第46図 造構出土土器 - 4

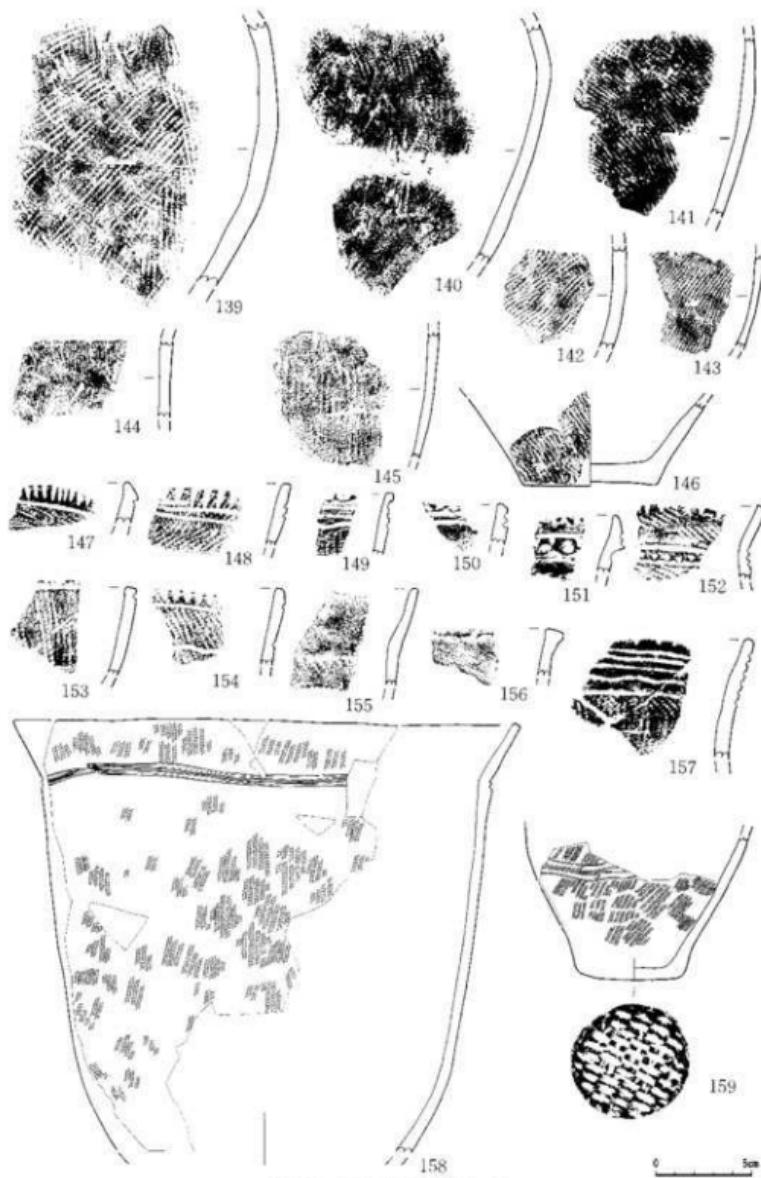
0 5cm



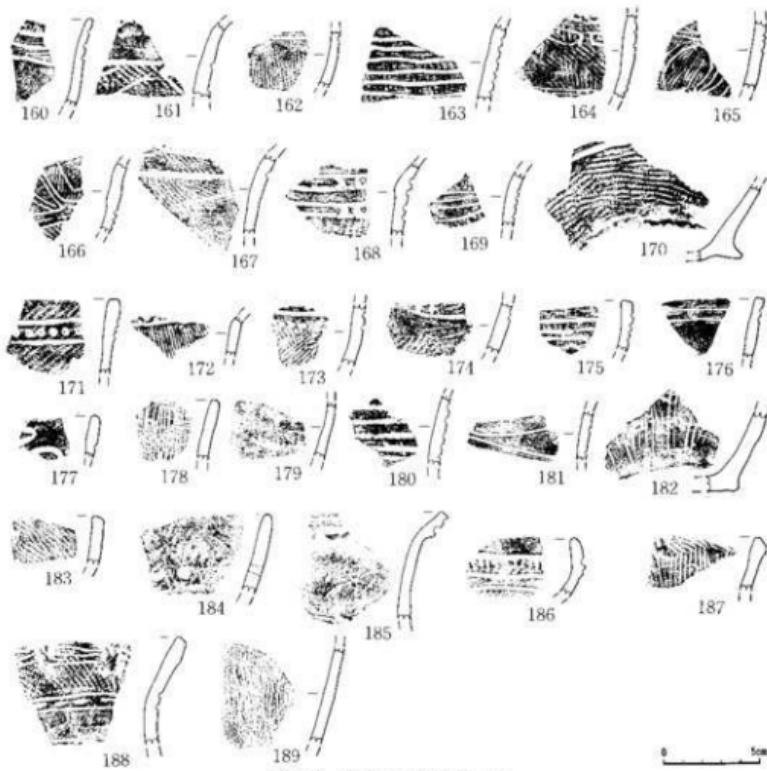
第47図 遺構外出土土器-5



第48図 遺構外出土土器 - 6



第49図 遺構外出土土器-7



第50図 遺構外出土土器一 8

第9表 遺構外出土器類齊表

番号	出土地点	層	部	位	外	面	施文	文様	内	面	分類
43区-1	F-13	III	口	縁	部	縄文(0段多条且L)	口唇部縄状面压痕				I
43区-2	H-23	II	口	縁	部	縄文(1種羽状縄文)	口唇部面取り		兼	直	II
43区-3	F-48	IV	口	縁	部	縄文(L,R)	口縁部縄端打底、口唇部面取り				II
43区-4	E-11	III	口	縁	部	馬蹄状圧痕+貼付降帶					III-1
43区-5	F-12	III	口	縁	部	馬蹄状圧痕+貼付降帶					III-1
43区-6	F-12	III	口	頭	部	馬蹄状圧痕+貼付降帶					III-1
43区-7	E-14	III	口	縁	部	馬蹄状圧痕+貼付降帶					III-1
43区-8	F-13	III	口	頭	部	貼付降帶					III-2
43区-9	F-16	II	口	縁	部	縄文					III-N?
43区-10	G-17	II	口	縁	部	縄文(L)					III-N?
43区-11	C-21	II	口	縁	部	縄文(R,L)					IV?
43区-12	F-12	II	口	縁	部	縄文(L,R)					III-N?
43区-13	F-16	III	口	縁	部	縄文(L,R)					III-N?
43区-14	E-14	III	口	縁	部	無文					III-N?
43区-15	F-16	III	口	縁	部	縄文(L,R)	口唇部縄文(L,R)				III-N?
43区-16	H-14	II	口	縁	部	縄文(L,R)	口唇部縄文(L,R)				III-N?
43区-17	F-15	IV	口	縁	部	刺突					III-N?
43区-18	H-11	I	胸	部	縄文(L,R)						III-N?
43区-19	H-23	II	胸	部							N?
43区-20	G-16	II	胸	部							N?
43区-21	E-F-14	胸	部	沈線	赤色顔料付着						N?
43区-22	E-F-14	胸	部	沈線	赤色顔料付着		同一個体				N?
43区-23	F-16	III	胸	部	沈線	赤色顔料付着					N?
44区-24	H-14	II	略光形	沈線+縄文(L,R)							N-1
44区-25	F-13	III	足	無文							N-1
44区-26	G-14	IV	胸	部	沈線+縄文(L,R)						N-1
44区-27	E-15	II	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)					N-1
44区-28	E-F-14	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)						N-1
44区-29	F-29	II	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)					N-1
44区-30	F-17	IV	口	縁	部	沈線	縄文(L)				N-1
44区-31	F-24	II	口	縁	部	沈線+縄文(L)					N-1
44区-32	H-22	II	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)					N-1
44区-33	F-17	II	胸	部	沈線+縄文(L,R)						N-1
44区-34	E-F-14	頭	部	沈線+縄文(L,R)							N-1
44区-35	F-13	III	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)	廣消縄文、口唇部突起				N-1
44区-36	E-16	II	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)	廣消縄文				N-1
45区-37	G-21	II	口	縁	部	沈線+刺突+縄文(R,L)					IV
45区-38	F-16	II	口	縁	部	沈線					IV
45区-39	F-15	II	口	縁	部	沈線	貼付降帶+縄文(L,R)				IV
45区-40	G-21	II	口	縁	部	沈線	頭				IV
45区-41	F-16	II	口	縁	部	沈線					N-3
45区-42	H-16	II	口	縁	部	沈線+縄文(L,R)					IV
45区-43	H-14	III	口	縁	部	沈線	縫帶に刷毛				IV
45区-44	G-17	II	口	縁	部	無文					IV
45区-45	H-20	II	口	縁	部	無文					IV
45区-46	F-14	III	略光形	縄文(L,R)							IV

45回 - 47	F - 16	III	底 部	沈縫 + 貼付、木葉痕、柄代痕	N - 2
45回 - 48	G - 15	III	口 緑 部	無文、内外面黒色	N - ?
45回 - 49	H - 16	II	底 部	縄文 (R.L.)、木葉痕	N - ?
45回 - 50	H - 24	II	底 部	四隅に刻目	N - ?
45回 - 51	F - 12	II	底 部	木葉痕	N - ?
45回 - 52	H - 14	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 53	H - 20	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 54	G - 14	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 55	H - 26	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 56	G - 14	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 57	H - 29	II	底 部	柄代痕	N - ?
45回 - 58	G - 23	II	底 部	擦 痕	N - ?
45回 - 59	E - F - 14		底 部	擦 痕	N - ?
45回 - 60	E - 21		底 部	柄代紋	N - ?
45回 - 61	E - 22	I	底 部	擦 痕	N - ?
45回 - 62	H - 13	III	底 部	擦 痕	N - ?
46回 - 63	H - 23	II	口 緑 部	縄文 (L.R.)	N - ?
46回 - 64	E - 13	III	口 緑 部	沈 縫	N - 1
46回 - 65	E - 14	III	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)	N - 1
46回 - 66	F - 24	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (付加条)	N - 1
46回 - 67	F - 17	II	胸 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)	N - 1
46回 - 68	G - 18	IVa	口 緑 部	無文 赤色顔料付着	N - 1
46回 - 69	G - 30	I	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)	N - 1
46回 - 70	H - 13	II	胸 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)	N - 1
46回 - 71	G - 23	II	胸 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)	N - 1
46回 - 72	H - 16	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)	N - 1
46回 - 73	F - 14	III	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)、補修孔	N - 1
46回 - 74	F - 16	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)、口部端文 (L.R.)	N - 1
46回 - 75	F - 13	II	胸 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)	N - 1
46回 - 76	E - 47	III	胸 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)、嘴消端文	N - 1
46回 - 77	H - 14	IV	完 形	沈縫、ミニチュア土器	N - 1
46回 - 78	H - 13	III	完 形	沈縫 + 縄文 (L.R.)、ミニチュア土器	N - 1
46回 - 79	G - 20	I	完 形	切断蓋付土器、木葉痕	N - ?
46回 - 80	G - 19	II	底 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)、擦痕、ミニチュア土器	N - 2
46回 - 81	E - 15	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)	N - 2
46回 - 82	E - 14	III	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)	N - 2
46回 - 83	E - 15	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (R.L.)、赤色顔料付着	赤色顔料付着
46回 - 84	G - 24	II	胸 部	沈 縫	N - 2
46回 - 85	E - 15	IV	胸 部	沈縫 + 刺突	N - 2
46回 - 86	H - 17	II	口 緑 部	沈縫 + 刺突、蟠状突起	N - 3
46回 - 87	G - 20	I	口 緑 部	沈縫 + 縄文 (L.R.)、蟠状突起	N - 3
46回 - 88	H - 20	II	口 緑 部	沈縫 + 刺突 + 縄文 (L.R.)、蟠状突起	N - 3
46回 - 89	G - 19	II	口 緑 部	無文 蟠状突起	N - 3
46回 - 90	H - 23	II	口 緑 部	沈縫 + 縄文、蟠状突起	N - 3
46回 - 91	G - 18	II	口 緑 部	貼付壁帶	N - 3
46回 - 92	G - 20	II	口 緑 部	被面状沈縫、口唇部貼付	N - 3
46回 - 93	F - 14	IV	汪 口	無 文	N - 3
46回 - 94		III	汪 口	沈 縫	N - 3

46回 - 95	G - 18	II 口 緑 部	無文、口唇部粘土縁貼付	V - 4
47回 - 96	F - H - 16	III 口 緑 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 97	E - 14	III 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 98	H - 16	II 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 99	H - 16	IV 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 100	G - 16	II 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 101	G - 14	II 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 102		口 頭 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 103	H - 16	II 脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 104	H - 12	脚 部	沈線+纏文 (R.L.)	V - 5
47回 - 105	H - 16	II 脚 部	沈線+纏文 (R.L.)	V - 5
47回 - 106		脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
47回 - 107	F - 18	脚 部	狩獵文・粘土縁貼付による	V - 5
48回 - 108	F - 20	II 口 緑 部	沈線+纏文 (L.R.)	(大綱B.C式) V
48回 - 109	F - 21	II 口 緑 部	沈線+貼付	沈線1条 V
48回 - 110	E - 17	II 口 紫 部	纏文 (L.R.)	V
48回 - 111	E - 16	口 緑 部	纏文 (R.L.)	V
48回 - 112	F - 17	II 口 緑 部	沈 線	V
48回 - 113	H - 14	III 口 緑 部	施削・口脣部压痕	V
48回 - 114	G - 15	II 口 緑 部	沈線+纏文 (R.L.)、口唇部削目+纏文 (R.L.)	V
48回 - 115	F - 17	II 口 緑 部	連続山形文+纏文 (R.L.)、口脣部削目+纏文 (R.L.)	V
48回 - 116	F - 20	II 口 緑 部	連続山形文+横位沈線	V
48回 - 117	H - 13	II 口 緑 部	連続山形文	V
48回 - 118	E - 16	口 緑 部	連続山形文+纏文 (L.R.)	V
48回 - 119	F - 20	II 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 120	F - 20	II 口 緑 部	連続山形文+纏文 (R.L.)、口脣部沈線	V
48回 - 121	E - 20	II 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 122	F - 17	II 脚 部	連続山形文+纏文 (L.R.)	V
48回 - 123	F - 21	II 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 124	H - 19	II 脚 部	斜位沈線+纏文 (R.L.)、磨消纏文	V
48回 - 125	F - 20	II 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 126	F - 18	脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 127	E - 12	III 脚 部	連続山形文+横位沈線	V
48回 - 128	F - 18	脚 部	連続山形文+纏文 (L.R.)	V
48回 - 129	E - 20	II 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 130	F - 17	II 脚 部	連続山形文+纏文 (L.R.)、赤色顔料付着	V
48回 - 131	G - 16	II 脚 部	連続山形文+うす巻文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 132	F - 18	脚 部	連続山形文+纏文 (L.R.)	V
48回 - 133	H - 13	III 脚 部	連続山形文+纏文 (R.L.)	V
48回 - 134	E - 20	II 口 緑 部	纏文 (R.L.)、口脣部纏文 (R.L.)	V
48回 - 135	E - 14	III 口 緑 部	纏文 (L.R.)	V
48回 - 136	F - 26	I 脚 部	纏文 (R.L.)	V
48回 - 137	E - 21	II 脚 部	纏文 (R.L.)	V
48回 - 138	H - 15	III 脚 部	纏文 (R.L.)	V
49回 - 139	G - 17	II 脚 部	纏文 (R.L.)	V
49回 - 140	G - 15	II 脚 部	纏文 (R.L.)	V
49回 - 141	F - 13	II 脚 部	纏文 (R.L.)	V
49回 - 142	H - 16	III 脚 部	纏文 (R.L.)	V

49回-143	G-17	III	脣 部	繩文 (L.R.)		VI
49回-144	F-16	III	脣 部	繩文 (L.R.)		VI
49回-145	E-18	III	脣 部	繩文 (R.L.)		VI
49回-146	F-13	III	底 部	繩文 (R.L.)		VI
49回-147	G-15	II	口 緑 部	繩文 (R.L.), 口脣部刻目・繩文 (R.L.)		VI
49回-148	E-21	II	口 緑 部	口脣部刻目・繩文 (R.L.)		VI
49回-149	H-15	II	口 緑 部	沈線+繩文 (R.L.), 口脣部刻目・貼付	沈線、繩文 (R.L.)	VI
49回-150	G-14	I	口 緑 部	沈線		VI
49回-151	E-14	I	口 緑 部	沈線+刺突+繩の所面压痕+指飾压痕、口脣部刻目		VI
49回-152	G-18	II	口 緑 部	沈線+刺突+繩文 (R.L.), 口脣部刻目・繩文 (R.L.)	沈線 1 条	VI
49回-153	F-18	II	口 緑 部	沈線+繩文 (R.L.), 口脣部刻目・繩文 (R.L.)		VI
49回-154	E-11	III	口 緑 部	沈線+繩文 (R.L.), 口脣部刻目		VI
49回-155	G-18	II	口 緑 部	繩文 (R.L.), 口脣部刻目		VI
49回-156	E-21	II	口 緑 部	無文、口脣部刻目・繩文 (R.L.)		VI
49回-157	F-19	II	口 緑 部	沈線+繩文 (R.L.), 口脣部刻目	繩文 (R.L.)	VI
49回-158	E-21	II	口 緑 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
49回-159	G-14	IV	脣 部	沈線+繩文 (L.R.)		VI
50回-160	H-12		口 緑 部	沈線+繩文 (L.R.)		VI
50回-161	F-18		脣 部	沈線+繩文 (R.L.), 補修孔		VI
50回-162	G-16	II	脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-163	E-18		脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-164	F-18		脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-165	E-12	III	脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-166	F-16	III	脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-167	F-19	II	脣 部	沈線+繩文		VI
50回-168	E-22	I	脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-169	F-20	II	脣 部	沈線+繩文 (R.L.)		VI
50回-170	G-17	IV	底 部	沈線+繩文 (L.R.), 赤色顔料付着		V
50回-171	G-16	II	口 緑 部	沈線+刺突+繩文 (R.L.)		VI
50回-172	E-21	II	脣 部	沈線+刺突+繩文 (R.L.)		VI
50回-173	G-17	II	脣 部	沈線+刺突+繩文 (R.L.)		VI
50回-174	G-17	II	脣 部	沈線+刺突+繩文 (R.L.)		VI
50回-175	F-14	III	口 緑 部	沈線、口脣部繩文 (R.L.)		VI
50回-176	E-22	I	口 緑 部	沈線、口脣部繩文 (R.L.)		VI
50回-177	G-23	II	口 緑 部	沈線、口脣部刻目		VI
50回-178	H-16	II	口 緑 部	帶衝状沈線		VI
50回-179	E-22	I	脣 部	沈 線		VI
50回-180	F-18		脣 部	沈 線		VI
50回-181	F-17	II	脣 部	沈 線		VI
50回-182	H-14	II	底 部	帶衝状沈線		VI
50回-183	G-19	II	口 緑 部	無文、口脣部繩文 (R.L.)	繩文 (R.L.)	VI
50回-184	H-20	II	口 緑 部	無文、補修孔		VI
50回-185	E-22	I	口 緑 部	沈線+貼付		VI
50回-186	H-13	II	口 緑 部	沈線+刻目		VI
50回-187	F-18		口 緑 部	貼付、繩文 (R.L.)		VI
50回-188	E-21	III	口 緑 部	沈線、刺突、貼付、繩文 (R.L.), 口脣部繩文 (R.L.)		VI
50回-189	E-12	III	脣 部	撲 染		VI

2 石 器

剥片石器56点、礫石器36点の出土である。総点数92点中、半数が遺構内出土である。また、特定の器種においては、そのほとんどが遺構内出土品であることから、遺構内出土のものと、遺構外出土のものを一括して述べる。

記載においては、剥片石器と礫石器とに大別して記載する。また、各器種においては一般的な器種名を用いた。

(1) 剥片石器

石鐵（第30図-1～6・13～19・第51図-1～6）

20点出土した。無茎鍼3点、有茎鍼11点、尖基鍼6点で、完形品は9点である。

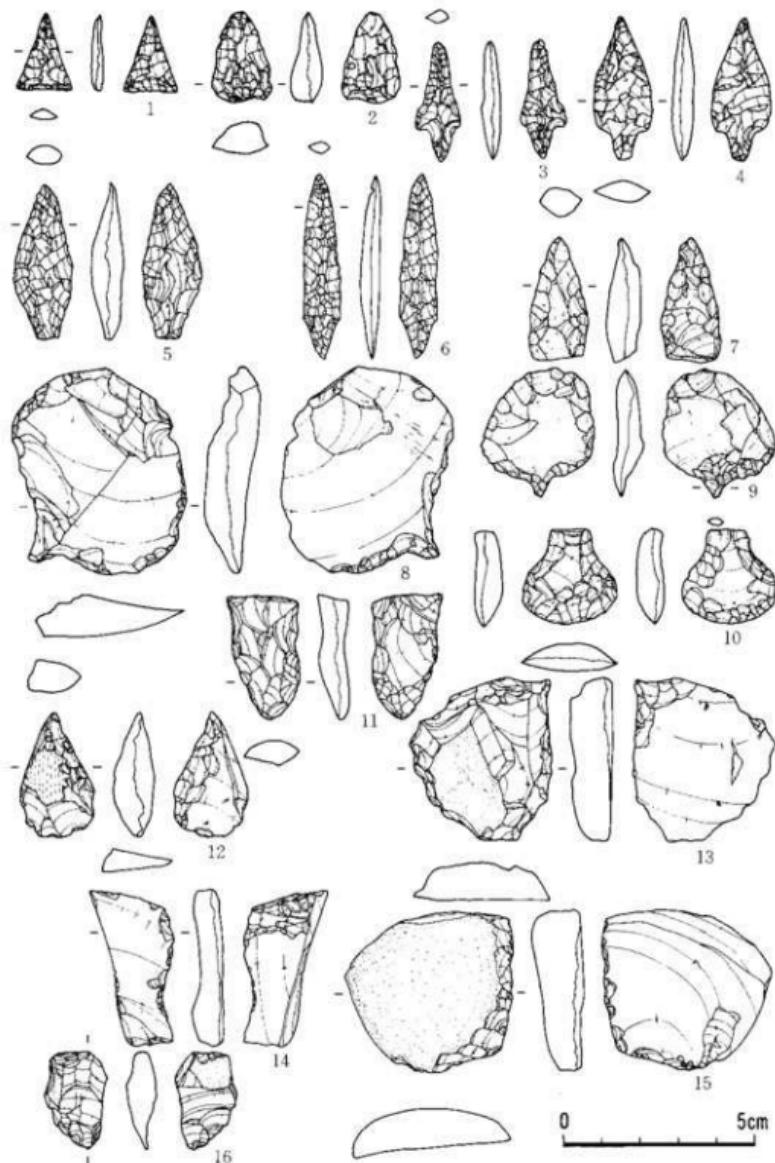
無茎平基鍼は、遺構外出土の51図1の1点である。無茎凹基鍼は4号住居跡の覆土中から出土した30図13と、遺構外出土の51図2の2点である。両者とも、基端の一方が丸く、一方が角張っており、抉りもごく浅いという特徴が認められ、後者は、基部側が非常に肉厚である。

有茎鍼は本器種中もっとも多数出土したもので、特に、凸基のものは7点出土している。

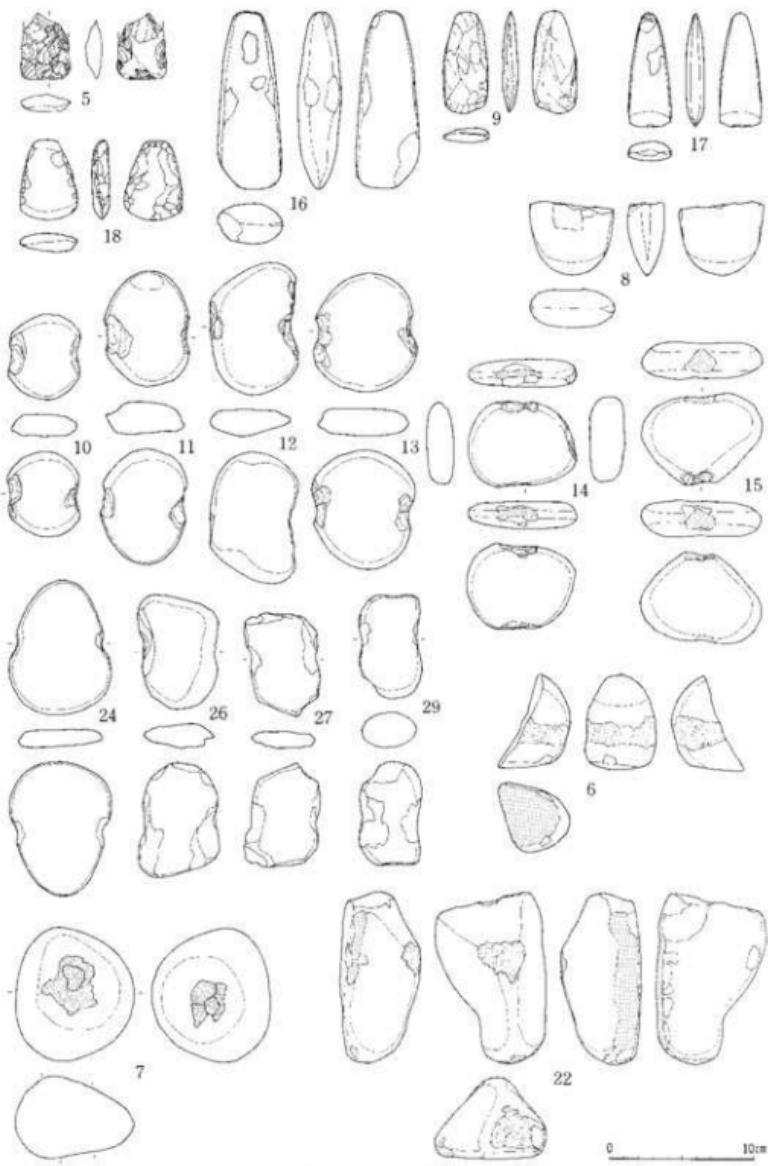
有茎平基の30図1と同2は、第1号住居跡出土のもので、茎部が太目に作出されており、特に2は基部幅に近い幅を有している。1は、本遺跡中ただ1点の黒曜石製の石器である。51図3は遺構外出土であり、尖頭部が細長く作出されている。51図4も遺構外からの出土で、大型のものである。大きさに比しては薄手である。

有茎凸基のものは、基部に2種類の形状が認められる。一つは直線的に広がるもので、もう一つは若干の丸みを帯びて、尖頭部に向かって鋭角に立ち上がるものである。前者は、第1号住居跡出土の30図3、第4号住居跡出土の30図14・15の3点である。いずれも小型で軽量である。後者は、第1号住居跡出土の30図4、第2号住居跡出土の30図12、第4号住居跡出土の30図16・18の4点で、遺構内出土のものである。前者同様に小型、薄手で軽量である。

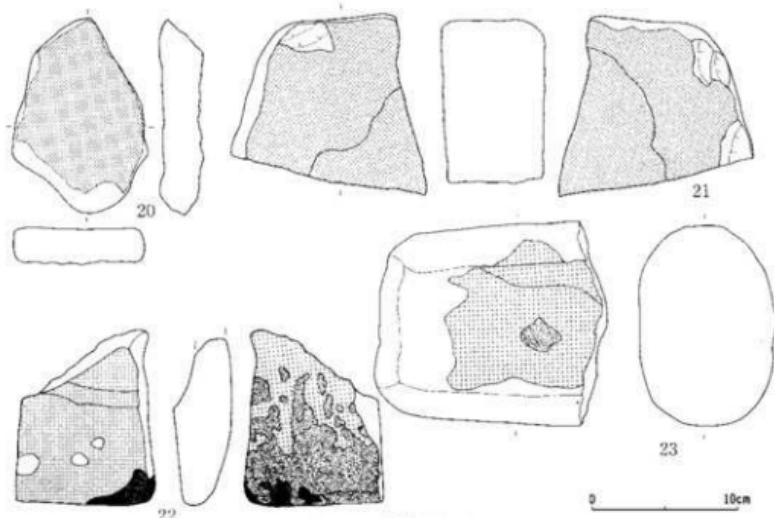
尖基としたものは6点で、遺構外出土は51図5・51図6の2点である。5は器体中央が肉厚のもので基部端を欠失している。側縁の調整から不定形削器の可能性も考えられたが、全体の形状から、石鐵の類とした。6は薄手の器長の長いもので先端寄りに微細な破損が認められる。第1号住居跡からは30図5・6が出土しており、ほぼ同形状である。2点とも先端部が若干厚みを持つこと、細長い棒状であること及び先端の形状から、石錐的用途も考えられる。30図19・17は第4号住居跡出土で、19は主に片面を調整しており、両面からの調整剥離は、両端部に行われている。尖頭部と基部の調整及び形状から本類としたが、第1号住居跡出土の2点と同様に石錐的用途も考えられ、両端部に可能性が認められる。17は片面が側縁のみの調整であり、尖頭部が偏っている。



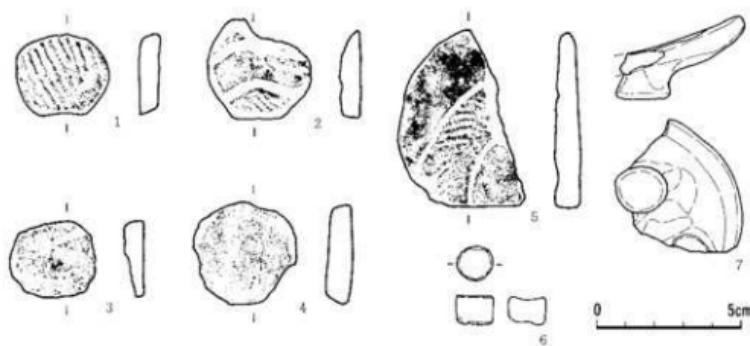
第51図 遺構外出土石器-1



第53図 造構外出土石器－2



第53図 遺構外出土石器



第54図 その他の遺物（土製品）

円盤状土製品計測表

No.	出 土 地 点	長 径 × 短 径 × 厚 (mm)	重 (g)	
1	H-14 III層	32 × 28 × 8	8.1	無縫R
2	F-16 II層	37 × (36) × 7	(9.7)	L.R + 沈縫
3	F-17 II層	30 × 27 × 7	5.4	縫文 + 沈縫
4	F-16 II層	37 × 36 × 8	12.5	無文
5	F-23 II層	72 × - × 9	(23.9)	I.R + 沈縫

第10表 石器計測表

剥片石器

國 版	出 地	土 点	層	器 種	較大計測表				石 質	整理 番號	備 考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g.)			
30國-1	1	H	2	石 鏽	31	18	4	0.9	黑	1	有茎平基
30國-2	1	H	覆石	鐵	22	15	5	1.0	珪 貞	20	有茎平基
30國-3	1	H	覆石	鐵	17	13	4	0.5	珪 貞	21	有茎凸基
30國-4	1	H	覆石	鐵(20)	11	4	(0.6)	珪 貞	22	有茎凸基	
30國-5	1	H	覆石	鐵	28	8	4	0.7	珪 貞	23	尖 基
30國-6	1	H	覆石	鐵	31	7	4	0.7	珪 貞	24	尖 基
30國-7	1	H	覆石	錐	29	18	7	2.7	玉 珪	26	
30國-8	1	H	覆 楔	型	61	23	7	7.5	珪 貞	25	
30國-10	1	H	覆 不定形		39	15	7	3.9	珪 貞	27	
30國-9	1	H	覆 不定形	(40)	23	9	(5.0)	珪 貞	29		
30國-11	1	H	覆 不定形		52	45	10	21.0	珪 貞	28	
30國-12	2	H	覆石	鐵(19)	12	2	(0.4)	珪 貞	30	有茎凸基	
30國-13	4	H	覆石	鐵(21)	13	4	(0.9)	珪 貞	6	無茎凹基	
30國-14	4	H	覆石	鐵(18)(13)	4	(0.5)	珪 貞	31	有茎凸基 火山灰下		
30國-15	4	H	覆石	鐵	18	14	4	0.5	玉 錐	32	有茎凸基
30國-16	4	H	覆石	鐵(20)	10	4	(0.5)	珪 貞	3	有茎凸基 火山灰下	
30國-18	4	H	輪石	鐵(26)	11	4	(0.7)	珪 貞	33	有茎凸基	
30國-19	4	H	覆石	鐵	37	9	5	1.3	珪 貞	34	尖 基 火山灰下
30國-17	4	H	覆石	鐵(24)	10	6	(1.3)	珪 貞	4	尖 基	
30國-20	4	H	覆石	槍	60	18	11	8.0	珪 貞	8	
30國-21	4	H	覆石	錐	52	8	7	2.2	珪 貞	18	
30國-22	4	H	巨石	錐	28	(27)	10	(6.0)	珪 貞	38	
31國-23	4	H	覆 不定形		70	30	15	23.0	珪 貞	9	
31國-24	4	H	輪 不定形	(72)	29	14	(22.0)	珪 貞	36		
31國-25	4	H	輪 不定形	(55)	42	10	(24.9)	——	37		
31國-26	4	H	覆 不定形		22	12	6	1.2	玉 錐	12	
31國-27	4	H	輪 不定形		27	34	10	7.0	珪 貞	13	
31國-29	4	H	覆 不定形		50	30	11	11.0	珪 貞	16	
31國-28	4	H	覆 不定形		60	32	11	15.5	珪 貞	17	
31國-30	4	H	不 定 形		64	35	10	22.0	珪 貞	35	
	4	H	覆 不定形		59	40	11	20.0	珪 貞	15	
31國-31	4	H	覆 楔	型	25	19	9	4.5	玉 珪	39	
41國-1	4	燒	— 不定形		44	45	13	28.1	珪 貞	10	
51國-1	E-15	H	石 鐵		20	14	3	0.6	玉 錐	5	無茎平基
51國-2	G-14	H	石 鐵		24	16	9	2.3	玉 珪	43	無茎凹基
51國-3	F-16	H	石 鐵		31	12	5	1.1	玉 珪	40	有茎平基
51國-4	G-21	H	石 鐵		38	16	5	2.5	珪 貞	2	有茎平基
51國-5	E-14	H	石 鐵	(41)	16	8	(3.7)	珪 貞	42	尖 基	
51國-6	G-18	H	石 鐵		49	10	5	1.9	珪 貞	41	尖 基
51國-7	F-17	H	石 槍	(33)	16	9	(4.0)	珪 貞	7		

國版	出土地点	層	器種	最大計測値				石質	整理番号	備考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)			
51國-8	G-13	II	石錐	55	46	12	26.7	珪質	47	
51國-9	F-18	-	石錐(34)	30	7	(4.6)	珪質	48		
51國-10	F-16	II	石錐	25	24	7	4.2	珪質	45	
51國-11	G-17	II	不定形(33)	19	8	(5.2)	珪質	44		
51國-15	H-14	II	不定形	43	44	13	26.5	珪質	50	
51國-13	G-13	II	不定形	43	37	10	19.5	珪質	49	
51國-12	F-15	III	不定形	33	19	11	5.2	珪質	46	
51國-14	G-14	II	不定形	41	22	8	5.0	珪質	53	
	E-29	-	不定形	25	20	7	3.0	玉髓	11	
	F-20	II	不定形	27	14	5	2.1	珪質	14	
	G-14	II	不定形	26	27	5	4.1	珪質	51	
	G-17	II	不定形	43	28	9	9.3	珪質	52	
	G-26	II	不定形	38	26	16	14.0	珪質	54	
	H-13	I	不定形	36	30	6	6.8	珪質	55	
51國-16	E-19	-	楔型	26	16	8	3.5	珪質	19	
	G-14	II	楔型	18	13	3	1.1	珪質	56	

礫石器

國版	出土地点	層	器種	最大計測値				石質	整理番号	備考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)			
32國-1	1 H	覆	スリ石	92	55	40	309	砂岩	19	
32國-2	1 H	斜	スリ石	60	55	44	219	安山岩	20	
32國-3	1 H	斜	スリ石	117	54	47	(513)	安山岩	21	
32國-4	1 H	斜	その他の	114	92	70	1081	安山岩	37	
	1 H	斜	台石	212	137	(112)	(4280)	チャート	38	
32國-7	4 H	覆	石錐	86	66	21	130	安山岩	25	
32國-5	4 H	覆	スリ石	(9.7)	(9.1)	(5.6)	(374)	安山岩	4	
32國-8	4 H	覆	スリ石	151	89	47	851	砂岩	28	
32國-6	4 H	覆	スリ石	(119)	(90)	(11)	(139)	砂岩	35	
32國-9	4 H	覆	凹石	85	66	53	394	安山岩	1	
33國-13	4 H	覆	台石	(372)	(295)	46	(7140)	安山岩	33	
32國-10	4 H	覆	台石	289	178	52	3580	安山岩	34	
33國-11	4 H	覆	台石	(74)	(75)	(45)	(403)	安山岩	2	
33國-12	4 H	覆	台石	(139)	(79)	(44)	(707)	安山岩	3	
52國-1	F-20	II	石斧	(46)	(35)	(12)	(13)	砂岩	5	打製石斧
52國-2	F-16	III	石斧	55	40	12	33	真岩	18	打製石斧
52國-6	F-23	II	石斧	(51)	(58)	(25)	(86)	砾石	8	磨製石斧
52國-4	H-18	IV	石斧	71	31	10	36	真岩	9	磨製石斧
52國-3	F-16	III	石斧	123	(45)	30	(225)	閃綠岩	16	磨製石斧
52國-5	F-20	II	石斧	78	30	13	45	輝綠岩	17	磨製石斧
52國-7	G-17	II	石斧	59	50	15	60	凝灰岩	10	
52國-8	G-14	II	石斧	80	60	22	133	砂岩	11	

回数	出土地点	層	器種	最大計測値				整理番号	備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)		
52回-9	E-15	II	石 透	92	60	18	125	砂岩	12
52回-10	E-15	II	石 鋸	83	72	19	163	輝緑岩	13
52回-11	E-15	II	石 透	75	59	18	124	砂岩	14
52回-12	G-21	II	石 透	83	63	26	192	砂岩	15
52回-13	I'-14	II	石 透	94	71	13	110	凝灰岩	24
52回-14	E-15	II	石 透	80	56	17	97	(チート)	26
52回-15	F-19	II	石 透	73	53	12	68	(チート)	27
52回-16	-	-	石 透	72	44	24	101	安山岩	29
52回-19	G-18	II	丸石 (119)	77	57	(534)	砂岩	22	
52回-17	G-21	II	北洋造式石冠 (50) (66) (48)	(147)			安山岩	6	
52回-18	-	-	四石	73	83	57	568	安山岩	7
53回-22	H-11	I	石 盆 (120) (95)	38	(430)	凝灰岩	31		
53回-20	G-14	M	石 盆 (133) (88) (31)	(337)			砂岩	30	
53回-23	H-23	II	台 石 (160) (141) (95)	3331			流紋岩	23	
53回-21	H-14	III	台 石 (125) (136)	76	(2150)	安山岩	32		

第11表 石器組成表

石種	石 頭	石 槍	石 錐	石 鉗	石 器	輪 型 石 器	標 型 石 器	不 定 形 石 器	石 斧	石 矛	北 洋 造 式 石 冠	石 刃	石 叉	石 み 石	石 盤 ・ 石 臼	そ の 他	計	
黒蝶石	1																	1
珪質頁岩	15	2	4			1	2	20										44
長質頁岩	2		1	4		1	1	1										6
玉髓	2							2										4
真岩																		2
千葉																		3
珪岩																		1
砂岩																		10
凝灰岩																		3
輝緑凝灰岩																		1
泥灰岩																		1
安山岩																		14
輝緑岩																		1
閃綠岩																		1
計	20	2	5	1	1	3	23	6	11	1	7	2	9	1			92	

(玉質頁岩→玉質質頁岩)

第3節 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果について

八戸工業大学助教授 村 中 健

1990年1月30日、受領した木片試料について ^{14}C 年代測定の結果を報告する。依頼試料は化学処理してベンゼンを合成し、これにシンチレーターを加え20mℓバイアルを作り測定試料とした。標準試料はNBSで保有する蘇酸標準体4990Cを処理して作成し、又、バックグラウンド試料は石炭を処理して作成したものを用いた。

測定装置はアロカ社製の低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ LSC-LB を用い、試料、標準試料、バックグラウンド試料について各々50分間ずつ4リピート、10サイクル合計2000分間の測定をおこなった。

年代の算出には ^{14}C 半減期としてlibbyの半減期5570年を用い、結果は1950年からの年数をBP年代として表記している。又、付記した誤差は計数値の 1σ に相当する年代である。

記

HIT-55: 福地村西山遺跡第1号竪穴住居床面から

出土した建築材と思われる炭化材

BP年代 : 1980±60年

以上

分にはできないのが現状である。K, Ca, Fe因子から強いて推察すれば、南部浮石よりも中振浮石に近い化学特性をもつと思われる。もし、中振浮石に対応するとすれば、大池・中川編年より、この火山灰を含む地層は縄文時代中期ということになる。

表-1 分析値

No.	検出量	K	Ca	Fe	Rb	Sr
No. 1	第1号竪穴住居跡	0.089	1.77	2.40	0.119	1.20
No. 2	第2号竪穴住居跡	0.082	1.64	2.61	0.111	1.12

図-1
Rb-Sr
分布図

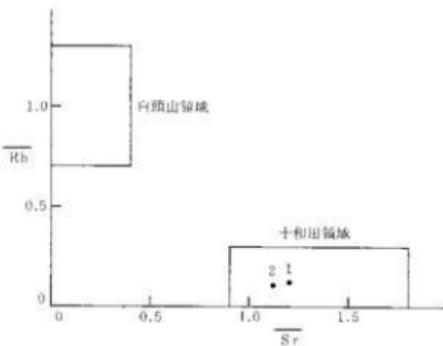
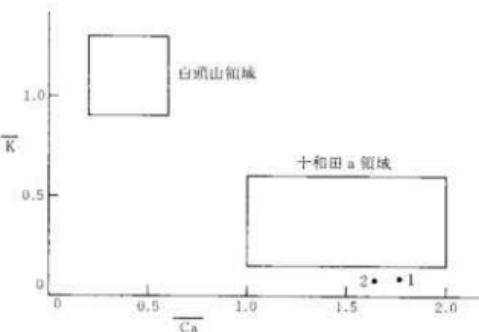


図-2
K-Ca
分布図



3 西山遺跡から検出された微細植物遺体について

北海道大学埋蔵文化財調査室調査員 椿 坂 恒 代

(1) 遺跡の所在と性格

遺跡の所在：青森県

調査主体：青森県埋蔵文化財調査センター

種子を伴った遺構の年代：弥生年代

遺構の性格：竪穴住居

(2) 資料の観察方法

ここで扱った資料は、長イモ用トレンチャーによる破壊から辛うじてまぬがれた竪穴住居の床面で採取された土壌から得られたものである。土壌は調査担当者がフローテーション処理し、その浮遊物中から得られた炭化した植物遺体（種子）として送付されてきた。この資料を、まず実体顕微鏡下で選別・観察をおこない、つぎに、走査型電子顕微鏡（SEM）を使用して微細構造を観察した。資料は、導伝性接着剤を用いて資料台に固定し、金イオンスパッタリング法により5mA, 1KV, DC, で3分間コーティングし、観察時の加速電圧12.5KV、写真撮影にはネオパンSS120ロール（6×7cm）フィルムを使用した。

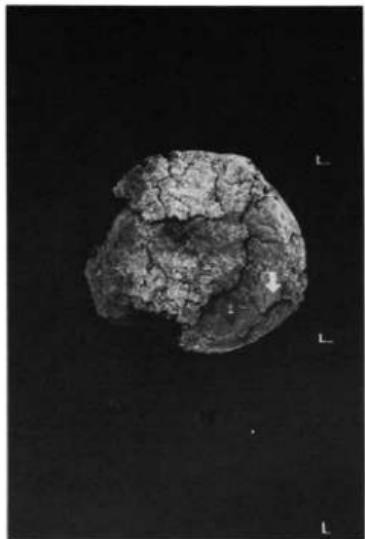
(3) 同定結果

同定作業の結果、タデ科種子（POLYGONACEAE）2、アカザ属種子（*Chenopodium* Linn.）2、ニワトコ属種子（*Sambucus* L.）1、クルミ内果皮片、不明種子が3粒出土した。不明種子については保存状態が悪く同定不可能であった。このほかに円形で直径1mm前後の表面構造を持たないものが多数検出されている。この種のものは種子とは考えられず、植物の根に寄生する菌核であろうと見られる。

西山遺跡出土炭化植物遺体表

遺構名	サンブル 採取区	タデ科 (粒)	アカザ属 (粒)	ニワトコ属 (粒)	クルミ層 (g)	不明種子 (粒)
4 H	F O					1
4 H	K				0.06	
4 H	L			1	0.04	1
4 H	M	1	1			
4 H	P					1
4 H	G O	1				
合計		2	1	1	0.10	3

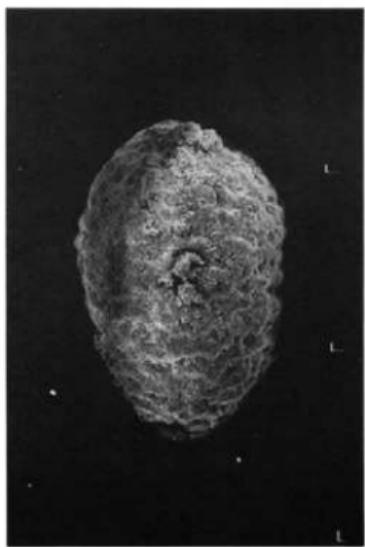
図 1



1 a アカザ属 $\times 35$

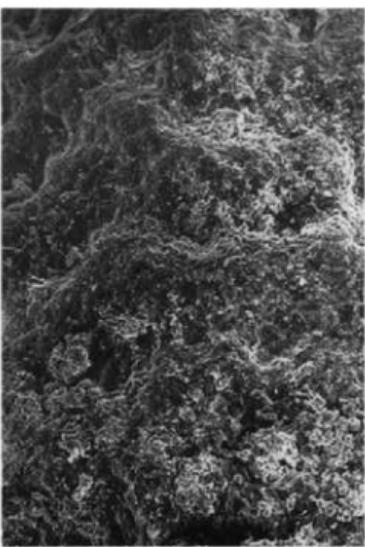


1 b 1 a の拡大 $\times 100$



2 a ニワトコ属 $\times 35$

スケール 「の間隔1.0mm



2 b 2 a の拡大 $\times 200$

(本図は原図を80%に縮少した。
(顕微鏡位率は縮少前のものである。)



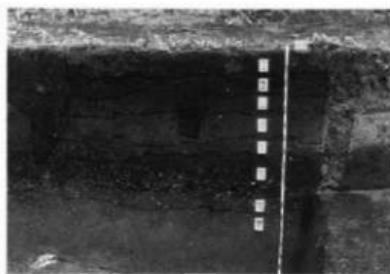
全景（調査前）



調査風景

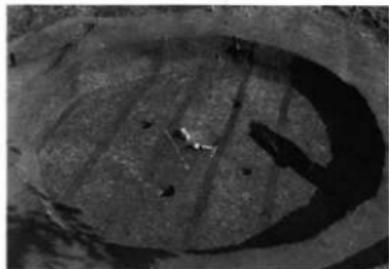


全景（調査終了時）



標準土層

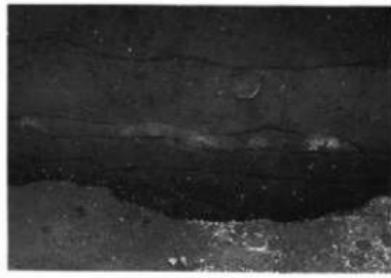
第1号竖穴住居跡



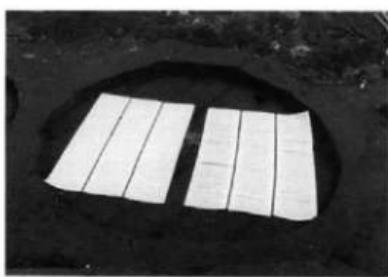
炉



降下火山灰



第2号竖穴住居跡

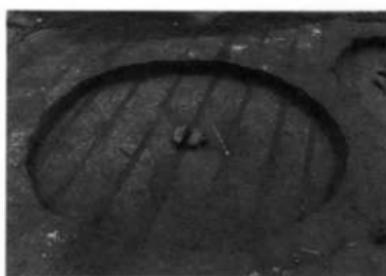
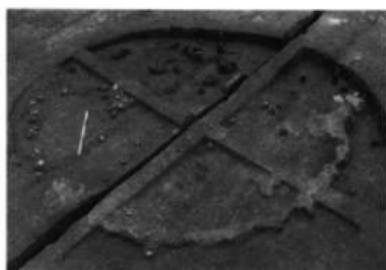


第4号竪穴住居跡

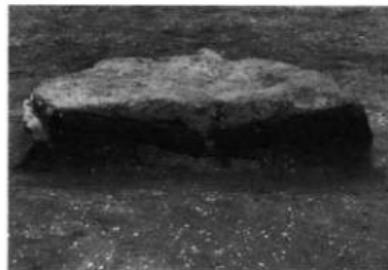


確認

火山灰堆積状況

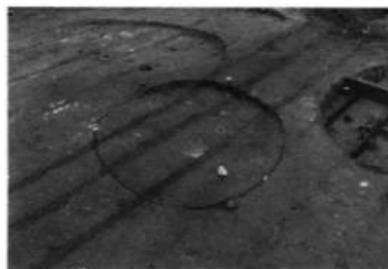


第4号竪穴住居跡



火山灰及び上部埴土

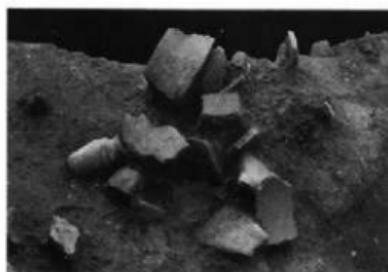
第5号竪穴住居跡



第4号焼土

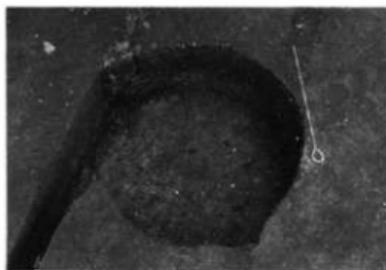


第4号埴土



遺物出土状況

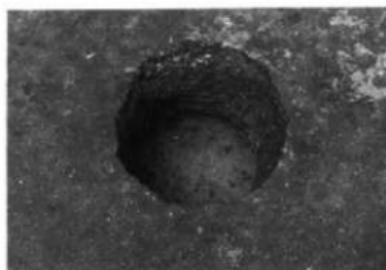
第1号土壤



第2号土壤



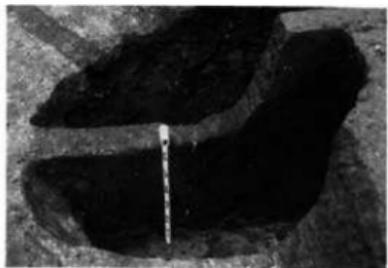
第3号土壤



第4号土壤



第7号土壤

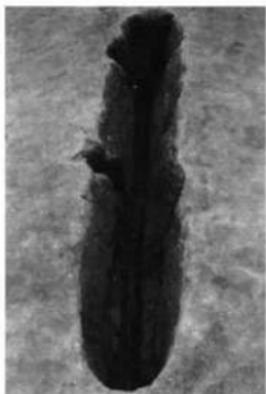


第1号溝状ピット



第2号溝状ピット

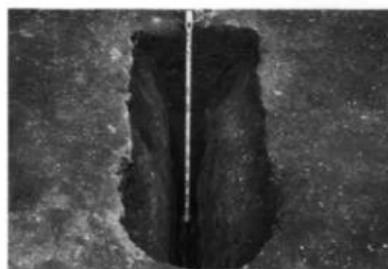




第3号溝状ピット

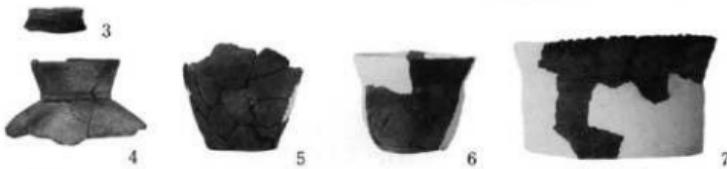
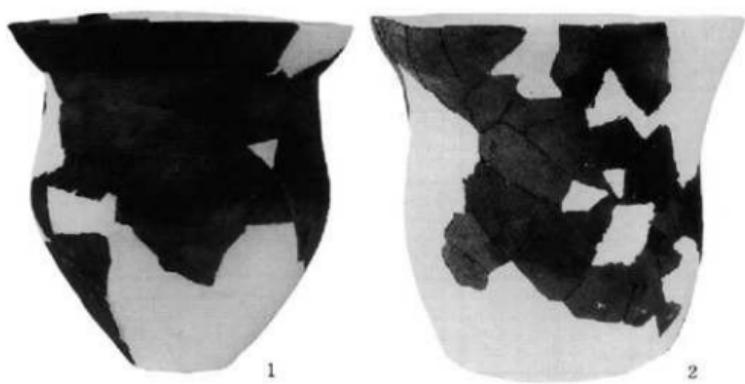


第5号溝状ピット



第6号溝状ピット

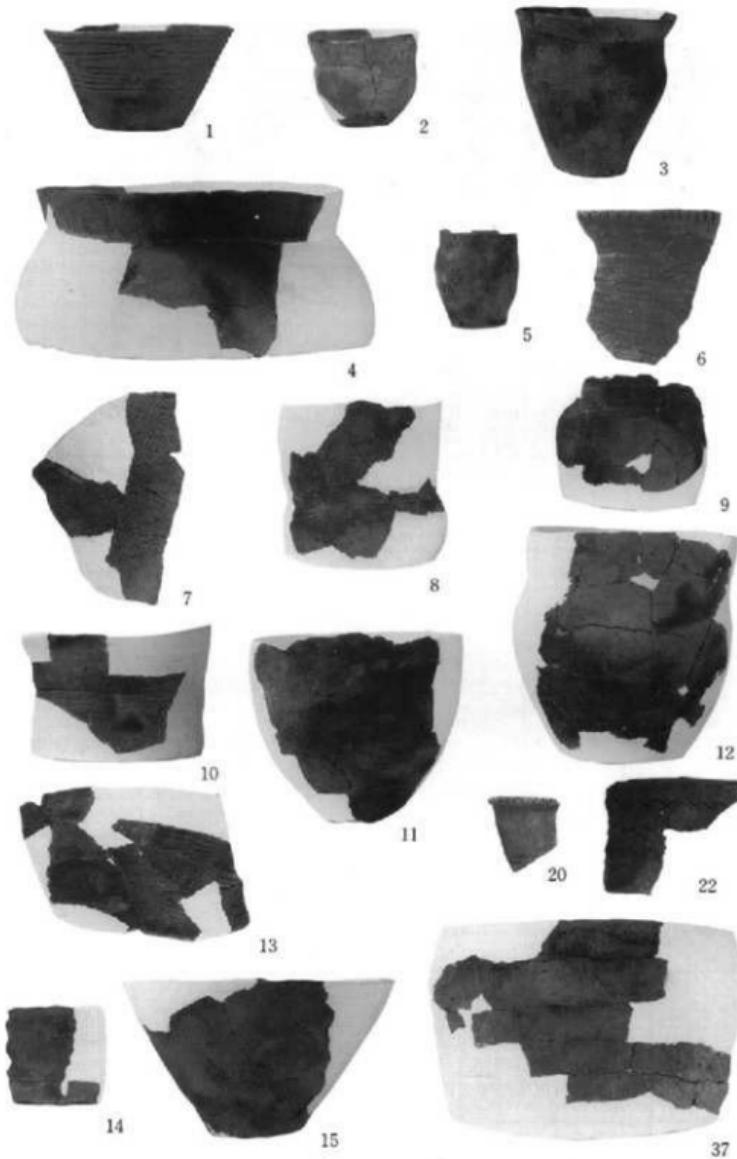




第1号住居跡

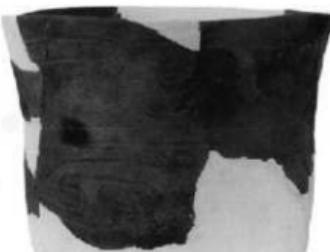


第2号住居跡





1



2



3

第5号住居跡



3



7

第4号焼土



1



2



3



21



22



23



24

遺構外土器

25

